

# 幼児の教育

家 庭・保育所・幼稚園

第五十三卷 第四號

日本国有鉄道特別技承認雜誌第六八三號



日本幼稚園協會



著者先生両江やつ小林・ハル倉戸

# うたとあそび

B5判 上製  
定価 三二〇円  
千 四八円

ラジオでもお馴染の楽しいうたを、著者独特の美しくおもしろい振付けをし、これを教材として春夏秋冬の四季に分類配列したもの。挿絵と、直ぐ役立つ楽譜を豊富に収めてあり、幼稚園、小学校低学年用の教材として好適のもの、全国諸先生方の好評の中に、第六版発売中。

# ハンドカスタのゆうぎ

B5判 上製  
定価 三〇〇円  
千 四八円

ハンドカスタをつかっている楽しいおゆうぎのしかたを楽譜付でくわしく説明したもの。ただし、ハンドカスタを使ってするあそびの独創的なもの。

「ベビー・ハンドカスタ」も発売中

日本リズム運動協会著

# 運動とリズム

B6判 一〇〇頁  
一〇〇円 千 三〇円

邦正美氏を中心に問答形式により、リズムと運動について解明する。

発行所

株式会社 不味堂書店

東京都文京区大塚仲町二  
電話(94)二七〇三・〇九九二  
振替東京六八七三九

東京学芸大学附属小学校教諭 渡辺 茂先生 共著  
東京学芸大学附属幼稚園教諭 安藤寿美江先生

# 幼児のための たのしいうたとリズム

第一集  
第二集

直接保育に当たっている両先生が多年の豊富な経験から作曲振付けられた美しい歌曲集。第一集は季節にちなんだもの三編。第二集は幼児の生活に関したものの三〇編を収む。  
各集A4判六四頁 定価各二二〇円 千各二四円

日本幼稚園協会編

# 幼稚園お話集

上・中・下  
全三巻

かねて御要望を頂いておりました新版が感々出来上りました。旧版は上下二巻でしたが、今回は多数の新しいお話を加えて上中下三巻としてあります。ふるくから伝わる世界のお話や、明るいくどものためのお話が美しく編集されていて、斯の種の決定版と云えます。実用向の堅固美装本。  
各巻A5判二二〇頁 定価各二二〇円 千各二四円

増子とし先生編著

# 保育のための 音楽カリキュラム (上・下巻)

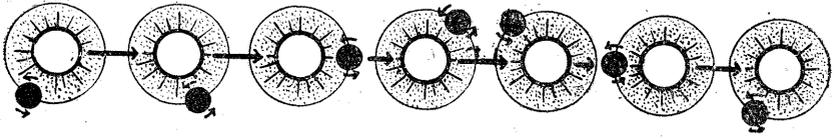
歌とおどりの有機的立体的結合を主眼として、カリキュラムを組んであります。一つの教材において運動のリズム、音楽のリズムその他を多角的に取扱っている点に本書の特色があります。

各巻B5版一四四頁 定価各四〇〇円 千各 四 円

発行所

株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町二ノ五



幼児の教育 目次 第五十三卷第四号

表紙……………猪熊弦一郎

幼稚園教育の義務制と幼年教育……………山下俊郎……………2

特集

1・園児を送る……………徳久孝・天方てい子……………8

2・新入生を迎える……………小林操・樋口澄雄・小原武雄……………14

☆座談会☆ 乱暴な子供……………28

小学生にみられる幼稚園経験の有無による差異……………関治子……………35

▼講座▲ 幼児のスモック一案……………柳沢澄子……………38

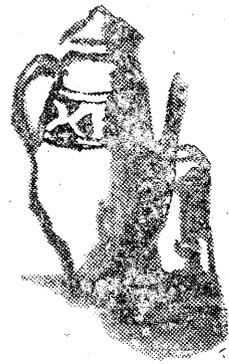
指導主事教科別連絡協議会記録……………45

編集主幹	倉橋惣三	及川ふみ	齐藤文雄
協力委員	牛島義雄	波多野完治	山下俊郎
編集委員	多田鉄太郎	西山浪太郎	(五十音順)

発行 日本幼稚園協会

# 幼稚園教育の

## 義務制と幼年教育



山下俊郎

一

幼児保育のしごとにたずさわって来た人々、またおよそ幼児というものに心から関心を持っている人々、こういった人々は、幼児保育という営みが、子どもの将来にとってひじょうに大きな幸をもたらすものであることを信じて疑わない。この信念は近代における幼児保育の創始者であるフレイベル、オウエン、オーベルリンという先覚者達も、ひとしく持っていたのであって、この信念が幼児の保育を新しい近代的な施設として創始させ、また発展させたのであった。そして、これら先覚者達の信念は現代の幼児保育者の思いとなつて、今日にまで貫かれていっているといつていいであらう。

このような幼児保育に対する思いは、保育者が自分の身のまわりに在る幼児達の上に新たな眼をそそぐとき、二つのことを思わせる。その一つは、眼の前にいる幼児達をいやが上にも幸ならしめるために、自らの保育の技術に対する反省をし、これを前進させるための研究をし、これに精進を重ねるといふことである。そして、その二は、自分の眼の前にいる幼児達の幸せな姿を見るにつけて、このような幸せな幼児保育の恩恵に浴することのできない数多くの幼児が、自分の身のまわりにもたくさん居り、また自分の眼に直接ふれない日本全国には、たくさんいるということ、そしてその幼児保育の恩恵に浴することのできない幼児達の上に、何とかして保育の恩恵を及ぼすようにしたいという考えであ

る。そして、この二つの考えは、現在わたくし達のまわりで活潑に動きつつある考えである。

## 二

ここでは今あげた第二の問題について考えてみよう。幼児保育の施設として、現在幼稚園と保育所という二様の施設があることは、わが国の現実である。この二様の施設は、その出発点において、学校教育法と児童福祉法という相異る法的根拠に立って居り、またその発生の歴史的事情からいっても、全く相異なる発生理由の上に立っている。しかし、現実においては、その大部分は、全く同じ年齢層の幼児が、片方は幼稚園に、片方は保育所に、という風にわけられている。またその保育の実際においては、現実の保育の姿には、それほど差異の認められないものが多い。理念的、また法的根拠は別なものであっても、現実の姿においては両施設に差異のないのが現状であるといっている。そして、それだからこそ、両種の施設が一元化さるべきであるとの考え方が幼児保育関係者の間に圧倒的に支持されている。この点についてわたくし達は日本保育学会の共同研究において、ひろく関係者の意見調査を行って、このことを明かにした。

(日本保育学会第四回大会、共同研究報告、「幼児の教育」昭和二十六年九月号所載)

しかし、現在の段階においては、このように両施設を一元化するということは、到底これを望むことができない。そして両種の施設を以てしても、全国の該当年齢の幼児数と保育施設に通って保育の恩恵に浴している幼児の数とをくらべてみると、保育施設に通っている幼児の割合はきわめて小さい。就学前一年という年齢をとってみても全国的にいえば、保育施設に通っている幼児のパーセンテージは、これを多く見ても精々全幼児の三〇%から四〇%の間であろう。

このことを考えると、わたくし達は保育の恩恵を、全国の幼児にあまねくかきわたらせるために、この現実と理想との間に、いくつかの段階を考えて、理想の実現に進むことが必要であると思う。この段階について、わたくしは少なくとも三つの段階を考えなければならぬと思う。

## 三

この保育の恩恵を、あまねく行きわたらせるという考え方を實現して行くための第一段階は、幼稚園は幼稚園として保育所は保育所として、それぞれの施設をでき得るかぎり増設し普及することである。現在はこの段階の努力はそれだけの関係者の間で進められている。この数年の間における幼稚園の普及も、保育所の普及もめざましいものがあること

は、文部省および厚生省の統計を見れば明かである。

ただし、この場合、両種の施設における保育の目標や技術においては、少なくとも同じ方向をめざすことが必要である。両施設とも幼児のより大きい幸せを目ざすことは、おんなじであるべきである。幼児はひとしくわたくし達の、日本の幼児なのである。保育所では、いわゆる保育に欠ける児童を対象としているといつても、保育の目標は同じ方向をめざすべきであり、ひとしく教育的であるべきである。現実の問題として保育に欠ける幼児と、そうでない幼児とを保育する技術はいくぶん違うべきであろう。しかし、それはどこまでも量的な違いであつて、質的な違いであつてはならないのである。

この方向の根本がしっかりとかためられているならば、現段階においては、幼稚園にしても、保育所にしても、その各々の線において、増設普及するということが、最も急を要する問題であると、わたくしは考える。施設を増設することが、幼児保育を普及する手段だからである。

#### 四

幼児保育を普及するための第二段階は、全幼児を保育施設に収容する法的根拠を作ることである。わたくし達がさきに行つた保育施設一元化問題についての意見調査の場合には、一元化の方向に二つの考え方があつた。数からいえば、幼稚園へ一元化しようとする意見の人が多かつたのであるが、保育所へ一元化すべきであるという意見の人もあつた。わたくしは、幼児の教育という立場から、幼稚園に一元化すべきであると考える。そして、幼稚園に一元化するためには、幼児教育を義務教育にすることが最も望ましいと考えるものである。そして、幼稚園教育の義務制という考えはいまここにわたくしが新しく持ち出したわけではないことは、読者の御存じの通りである。すでに太平洋戦争以前に、全国幼稚園大会、保育大会、各地の保育会ないしは保育連合会で度々議せられたことであり、文部省に対してこれらの団体から建議案が数次にわたつて出されたことを記憶している。

幼稚園教育が義務制になれば、全国のすべての幼児が幼児保育の恩恵に浴することになる。幼稚園教育の義務制化こそ、日本全国の幼児に幸せをもたらす法的根拠を与えるものであるといえよう。

#### 五

このようなわけで、わたくし達は幼稚園教育の義務制が最も理想的な方法だと考えるのであるが、終戦後わが国の教育制度が根本的に改革され、いろいろの変化があつたけれども、一足とびに幼稚園教育の義務制化へすすむということは、現実においてその実現がひじょうに難しい。そして、現行の学校教育法の建前からいうと、三才を以て就國の年齢としてあるから、義務制にするとなれば、義務教育年齢を三年ひき下げることになる。これは実状からいってひじょうに難しいことである。また、四才から幼稚園年齢とすべきであるという考え方もある。

そこで、むしろ四才から義務教育の年齢にすべきであるという考え方が出てくる。しかし、これも現実の問題としてはそう容易なことでない。最初の目標はそこに置くとしても、義務制の実現をすすめて行くには、まず最初は就学前一年を義務制にした方が実現の可能性が高い。そこで、まず義務制への第一段階としては、就学前一年を義務制にする運動を進めようという考え方が生まれ、その運動が行われようとしたことがある。昭和二十六年の秋、日教組主催で日光に開かれた全国教育研究大会の幼児教育部会で、わたくしも参加して行われた決議がこれである。

およそ、すべてのことは漸進的に行われなければ実現の可能性が薄い。就学前一年から義務制を進めようというのはこの考えからである。一昨年度省が幼稚園教育普及のため、就学前一年の幼児をなるべく優先的に入園させるようにという方向をとつたのも、これと同じ考え方であると思う。わたくしは、まず就学前一年を義務制とすることができたら、その次に二年を義務制にするという段階に進むのが順当であると思う。

しかし、いずれにしても幼稚園を義務教育にするということは、幼児保育者のひとしく目指し、その実現を計るべき問題であると思う。これ以外には、徹底的に幼児保育を普及する道はないからである。

## 六

就学前二年を義務教育にすることができたら、そこではじめて第三段階として、幼年教育の実現が目指さるべきである。この問題は普及した幼児教育をよりよい教育にするための方法だからである。いわば教育方法的に見た理想の方法として考えられるものだからである。現行の就学前二年と小学校の一、二年をまとめて一つの教育体系とすることは、心理学的に見て最も望ましい姿である。この事については、日本保育学会第一回大会におけるシンポジウム「保育年齢の問題」に於て論ぜられた（「幼児の教育」昭和二十四年二月号）。また、現行の学校教育法の生みの親として幼稚園教

育のためにひじょうに骨折られた当時の文部省の初等教育課長の坂元彦太郎氏（現岡山大学教育学部長）も、幼年教育をいつかは実現したい理想としてよく語られていた。わたくしもまた幼年教育という体系は、心理学的に見て最も望ましい姿であると思う。その実現を計りたいと切望してやまない。

しかし、現実の問題としては、一足とびに幼年教育という体系を實現しようとすることはひじょうに難しいと思う。今までに述べて来たように、第三の段階として努力すべき問題であるというのがわたくしの考えである。

しかし、このことは現実の教育体系の中で、幼稚園教育と小学校一、二年の教育とを一系統として考えて、よりよい教育をするという方向の努力を否定するものではない。このことは大いに力めなければならない。しかし、制度化するのはどこまでも第三段階にすべきである。幼児教育の普及が何よりも先決問題だからである。

## 第七回 日本保育学会大会——予告——

時 日 昭和廿九年五月三十日（日曜日）午前九時より午後四時まで

場 所 神戸市 山手女子短期大学 開催予定

詳細は頌栄短期大学内準備委員会宛照会のこと

# 幼稚園教員臨時養成課程入学募集要項

【昭和二十九年年度】

## お茶の水女子大学

幼稚園教育の重要性にかんがみて左の要項によって幼稚園教員の臨時養成を行う。

### 記

第一学年 約三十名  
二年

- 一、募集人員
- 二、修業年限
- 三、入学資格

次のいずれかの資格を有する女子にして昭和二十九年年度進学適性検査を受けたものに限る。

1. 新制高等学校を卒業した者
2. 新制高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 四、出願手続 志願者は本大学に請求して『志願者名票』用紙を受けとり（郵送希望者は返信用封筒に切手を貼布同封すること）これに必要な事項を記入の上左記の添付書類とともに検定料四百円を添え提出し、大学から『受験票』の交付をうけること。志願者名票を郵送するときは必ず書留郵便にすること。
1. 写 真 半年以内に写したものの一枚。大きさは、手札型。（台紙は志願者名票とともに交付する。）
2. 調 査 書 調査書は志願者が出身学校へ依頼し出身学校長が文部省所定の様式により作製するものであって、当該学校長から直接本大学に郵送されることになっているので、その際名票その他をとりまとめて送付されると便利である。
3. 受験票送付用封筒

『受験票』の郵送を受けたいときは、表面に自己の住所氏名を記載し、切手を貼付した封筒を『志願者名票』とともに送ること。名票の受理は『受験票』の届いたことで承知すること

### 4. 進学適性検査受験票

志願者は受験の際必ず昭和二十九年年度施行の『進学適性検査受験票』を携帯すること、なお『進学適性検査場名』および『受験番号』を『志願者名票』の欄内に記入すること。

五、出願期日 昭和二十九年三月一日から三月二十日まで

六、学力検査科目

国語 理科（生物） 図画 英語 音楽（声楽） 体育（実技）

七、検査期日および時間割

三月二十三日 午前九時—午後三時 国語・理科・図画・英語

三月二十四日 午前九時—午後三時 音楽・体育・身体検査

面接

三月二十五日 午前九時 身体検査

八、検査場所 東京都文京区大塚町三五 お茶の水女子大学（都電 大塚窪町下車）

九、合格者発表

合格者氏名を三月二十八日、本大学に掲示する。

十、入 学 料 四〇〇円

授 業 料 年額六〇〇〇円 本大学に同じ。

十一、卒業の資格

幼稚園教諭の二級普通免許状を受けることができる。

東京都文京区大塚町三五 お茶の水女子大学学部事務室

# 園児を送る（幼稚園の立場から）

## 小学校に望むこと



徳 久 孝

娘を嫁づけた母親が、どんなに先方がよくしてくれても、更により以上の幸福を願うように、一年なり二年、精魂を打ちこんで育てた幼児を送り出した小学校に対しても、少しでも子供が幸福に暮せる様にといい事を、私達は望んでやまない。小学校側から考えられたら、その様な事は「ぜい沢だ」と思はれる程、あゝもしていただきたい、こうもしていただきたいと願うのはやはり親心である。近來幼年教育として幼稚園から小学校一、二年までの教育が熱心に研究され、幼

稚園と小学校の先生方が一諸に話し合ひ機会を持たれているのは、誠に嬉しい事と思う。然し此の際私達から言はせればまだ〳〵小学校の先生方の熱が足りない。もつと〳〵来て下さればよいのにと痛切に感じる。

然し全国的に見ても、小学校に比較して幼稚園の数はまだ〳〵微々たるもので、就学児の十六・八五パーセントが幼稚園教育を経て来たに過ぎない状態である。そこに幼年教育としても大きな問題があるわけである。幼稚園から小学校に行つた子供と、幼稚園に行かなかつた子供の差について調査した際にも、東京都に於てすら、幼稚園を経た者が級に一名か二名という学校もあり、級に一、二名では比較調査もし様なく、個人差の問題になつてしまふ。幼稚園はブルジョア的の物であるという観念は、漸く一般社会から考え直されて来た様に見えるが、幼稚園から来た者は我まゝだ、甘やかされてゐる、出しゃばるといふ様な評はまだ時々耳にする。数多い幼稚園の中には、まだ本来の幼児教育からずれて父兄の御氣

嫌とりをしたり、有名校の入学率に熱心な悲しむべき幼稚園も無いとは言えないが、「幼稚園からの子は出しゃばりである」と解さずに、積極的な面を学習に利用してほしいものと思う。

◎先づ幼稚園を知っていたゞき度い。

これが私達が小学校の先生に御願ひする第一である。お互の教育の本当の姿を知って研究し合うのが第一であるから、幼稚園からも度々小学校を参観して、今の学校がどの様な教育をしているかを知り、小学校の先生にも幼稚園を見ていたゞきたい。根本の教育方針には勿論差いのある筈はないが、幼稚園が生活指導を中心として、生活の中で民主社会人としての基礎を培っている所を見ていたゞきたい。併設園のある学校はまだくゞ連絡を取る機会もあるが、ない所は是非ゆっくりと参観され、それを本にして話し合いの機会を持ちたい。

◎連絡会及び合同研究会を持ちたい。

小学校に入る前には、どこでも幼稚園と小学校との連絡会が持たれ、幼児の引つぎのな事が行はれると思うが、それだけにとゞまらず、一学期に一回位は其の後の子供の變化等につき連絡の会をしたい、それと同時に合同で研究する会を持ちたい。或は音楽について、或は絵について、小学校ではどの様にやっているか、幼稚園では……と、お互に一つ教科を

中心にしての会を持つのも非常によいと思う。

◎指導要録を重要視していたゞきたい。

近年、幼稚園から小学校に進学の際、指導要録を提出する事になっているが、それがどの程度利用されているかという点、まだくゞ十分でない様に思う。入園当初の連絡会の為でなく其の後の變化を知る為に、いつも身近において参考にされたいと思う。

◎幼稚園で賤けた事を続けさせてほしい。

幼稚園で生活指導として賤けている、手を洗う事、食後の歯磨き、便所の使用法、遠足に行つた時の食事の後始末、乗物の乗り方等々、色々の事が学校へ行く途たんに逆戻りしてしまふ。幼稚園の一年間ではまだ十分身につくという所までいっていないので、先生の注意が無いと忘れ勝になる。便所に行つても手も洗はず、遠足に行けばお菓子を食べながら歩く。紙屑は散らし、ばなしという状態をよく見る。どうぞこういう事は低学年の間にしつかりと仕上げをしていたゞきたい。遠足の時往々見かけるが、先生は先生で集り、生徒は勝手に食事をするという様な事だに、やはり子供の中に入つて指導してほしいものと思う。これと同じ様な状態が学校の休み時間にある。幼稚園は朝の登園からお帰りまで、先生の目がはなれる事はないが、学校の休み時間は全く放任状態にある。此の間にけんかをしたり、取組み合いをしていて

も、誰も見ていない者が無い。授業時間だけが教育の場ではない。休み時間も先生が共に遊び、又話し合いをする時間として子供の中に入り、一方では親しみを増し、又一方では子供をよく観察する機会にしてほしいと思う。低学年は教科中心でなく、もっと生活中心の教育であつてよいと思う。

◎子供を退屈させない様に。

小学校へ行つたら、とあこがれを持って張り切つていた子供達が、四月の初め「つまらないやあ——」と、よくうたえて来る。型の如く坐らせられて授業を受ける。少し積極的に出れば叱られる。絵を書くのも小さい紙、粘土も片手に一にぎりしか渡されない。これでは今までのび〜と生活して来た幼児は退くつしてしまふ。或時はもつと大きな絵を書かせてもよいのではないか。大きな粘土で協同製作をしても、それが教材につながるを持って出来る筈である。子供の持つてゐる力を充分に出し切れる様な機会を与えてほしいものと思う。

◎カリキュラムを一貫したものに。

前の連絡をもつという事にも、子供を退屈させないという事にも関連して行くが、併設園のある所では、幼稚園と小学校一、二年とが一貫したカリキュラムを作つてやる様にしたらば非常によいと思う。そうする事によつて其の間に溝もなくなり、子供が急に生活様式が変わつて苦勞する事もなくな

ると思う。然し、これにはまだ〜色々研究しなければならぬ点も多々あると思うが、今後は是非実行されたいものと思ふ。

(番町幼稚園長)



## 卒園児を受持たれる 親愛なる小学校の先生へ

天方 てい子

三学期になりますと私は、お弁当の後とか何かの折にふれぼんやり考えこみ、ハツと我にかえる事があります。何を考へてたのかとふりかえりますと「この子も又去つて行く」と形容の出来ない、淋しさの思ひにふけていたのであります。雛祭の行事も済み、ほつと一息つく頃になりますと涙さえこぼれて来ます。そして残る幾日かを自分に出來得る限りの能力を絞り出して、子供の喜ぶ楽しい行事をプランに盛りこみ、名残を惜しむのであります。

お話は云うに及ばず、幻燈に人形芝居、影絵、さては先生演出による演劇、園内の放送設備を利用してほんもののプロデューサー顔負けの園内放送。歌あり、音楽あり、物語りあり



何はともあれ申上げたいのです。幼稚園の先生は、気長でま  
だるゝこくて甘々たるいようだと、学校の先生の思われませ  
うは、この教育の指導法に大きな差いのある事に御氣附下さ  
りましたらと思います。

× × × × × × × ×

やがて一と月も経ちました頃、小学校との連絡会が持たれ  
ました。去年のこと、色々な話し合いの中で「幼稚園から来  
た子の五十人のうちすぐ字の読めた子が三九人で、残りの子  
が全々読めない。それが困りものなんです」と云われました  
が、その時は、よもや幼稚園で字や数を教えて準備する所と  
考えておられない事と思ひまして、聞きのがして済ませまし  
たが、この意味での準備教育は致しておりませんのです。子  
供が字の読めますのはわざ／＼教えたからでなく、三学期に  
なりますとお正月の遊びを主題としまして、カルタ取りや郵  
便ごっこなどで、文字に対する関心やら興味がおこり、覚え  
たいと思う子が覚えるのです。この様な事は解りきつた事な  
のですが、ついこの頃若い先生が「字を教えなくてもよろし  
いか」と不思議な事を聞かれ、その様な気持になつた原因は  
昨年先生のおしやられた「残りの字の読めないのが困る」  
とのあれでしたので申上げてみました。幼稚園では幼児の心  
身を順調に成長させる為に、その時期でなければ身につける  
事の出来ない教育内容をねらいとして、適当な環境と社会生

活の中で保育するのが幼稚園なのです。

× × × × × × × ×

所でその保育内容に就きましては、幾らかでも認識のおあ  
りの先生は、ほんとうに数少ないと思われます。これは私達側  
にも大いに反省の必要がある事ですが、先程生活をさせると  
申しましたが、生活の中で子供達に色々な事を計画たてて教  
育する。その色々な事とは、音楽、リズム、絵画、製作、お  
話、観察、健康教育、その他を生活の中に織りこみまして、  
音楽や話をきく事により美しく豊かな心を養ひ、音楽によつ  
てリズムを感じ、それを或は創作的に表現する事も出来るよ  
うになり、絵を描かせ、色々なものを製作し、こうして自分  
の心を表現する事が出来ます。社会やら自然の観察も致しま  
す。前に云いましたように、劇遊び、人形芝居、又は年中行  
事でのしきも経験します。こうして知的なものも身につけ  
ますが、これだけでなく、健康安全な教育も忘れなく目標の  
中に狙つてあります。これ等が保育の内容です。

× × × × × × × ×

そして、これは生活しながら強制する事なく、培われ育て  
られますのです。この様な事について少しでも御理解下さい  
まして、学校の学習に取り入れ下さいましたら、通学し出し  
て一週間もしますと、なんとなくぐんなりした感じの顔つき  
になりますのが防げるように思えます。又先生も学習にたの

しさを盛られましたら、しんどさも解消しますのではないのでしょうか。よく一年生の担任は一応誰れもが敬遠するといふような事をききますが、楽しく生活しながら学習する、一年生もこうなりますと、私もついて行きたくなります。

× × × × × × ×

それにもう一つ。この保育内容によって育み培われた所の情操的な面、この芽をくれんも踏まないで、とめないで、壊さないで、伸ばしてほしいのです。丁寧な配慮でとくに心の美しさ、やさしさ、情操といった精神的なものを、大切に出来ました幼稚園のねらい、これは小学校の新入生だけにではなく、ずーっと続けてねらって下さいます様に。人間性のもとともなります情操面は、小学校の三年位までに育てなければもう人生に於ては育つ機会を失うとか聞きました。色々とお願ひばかりを申上げました。

× × × × × × ×

次の事はどうしたものかと大分迷いましたが、申上げて見ましよう。託児所と、それから託児所と内容を同じくした保育所、ここで幼児期を過した子供についての数々の批難を、それ即ち幼児教育、即ち幼稚園の内容の悪さ、教育的に考えられていないという事に結びつけられますが、教育を委に受けて来てやりにくくて困る、それは音楽等で指摘されますのですけど、誤った音程を正しい音程に戻す事が出来ないとい

うような事も耳にしました。これは私達もよそ事ではなく、心に止め置く事でございますが、この様な問題は今少し慎重に考慮して欲しいのです。現在の農村、町、村、の保育所の管理運営とか職員組織、そこいらに大きな問題が孕まれておると思いますが、私の申上げたいのは考えられた幼稚園の中で生活して来た子と、そうでない子との二つの姿を、大きな観点から眺めてみてどういふ姿が好ましいか、就学前にどういふ教育のシステムを経た子が希ましいか、すると就学前一年の教育の義務づけとか、又はよき幼稚園の数の必要な事、こういう声が一年生を受持たれた先生から上げられますとしましたならば、それはどんなにか私達に勇気と励みとをもたらして下さる事でしょう。

× × × × × × ×

長々と申上げましたが、最後に先生も私も同じく教職にある身としまして、子供達の成長をより教育的に指導するため、幼・小の連絡も密切に行い、連絡会も形式的におわらぬよう、その他いろいろの問題につきましまして一歩一歩向上しますよう、手を取りあって進んで行きたく、このことを切に望みましてペンをおきます。失礼を致しました。

(天津幼稚園長)

§ § §

# 新入生を迎える

(小学校の立場から)

## カリキュラムの連絡より



小林 操

ぶかゝの帽子、新しいランドセル、手首もかくれるような大きめの新調服、きちんとたゝんだハンカチに名前を書いて胸高に留めた新一年生が、母に、父に、兄姉に附添われてそれぞれの学校の校門に吸い込まれていく風景は、春にふさわしい、心あたたまる情景である。私は何十回となく春毎にこの情景を経験して来たが、これほど新鮮で希望にみちた行事は、一年を通して他には一寸見られないようにさえ思われる。

ひとつの学校に入学して来る一年生は、百人あれば、百の家庭から来るのである。百の家庭は、その情況や環境においてそれぞれ完全に百種類の異つた生活環境の中に生い立つた子供たちであることは、すべての教育活動の先行条件として考えられなくてはならないのは言うまでもない。この言うまでもないところに最も基本的な異つた問題がある。この問題を十分に検討し、考慮し、工夫してその上に行き届いた教育計画が立てられなくてはならない。

それぞれ異つた生活環境から学校という集団社会につながる所に、不自然なものが目立つたり、喰い違いがあったり、なめらかにつながらなかつたりするようなことがあると、子供たちは非常に不安定な情態に陥入り、その影響が大きく、且つその子供の将来を左右するような事さえある。こゝに、送り込むもの、迎え入れるものゝこまやかな心遣いと細心の注意と苦心とが要求される。

異つた各家庭の生活環境は一まずおき、新入児童の入学前における生活の実態を考へて見ると、家庭から直ぐに小学校

へ入学するもの、幼稚園の経験を経て入学するもの、保育所から入学するものが考えられる。幼稚園から入学するもの、中にも三年保育、二年保育、一年保育とその経験年数に差がある。保育所を経て来るものも経験年数の差は、これもまた幼稚園と同様である。

就学前幼児の保育機関が、小学校と同じ程度に充実していない現状では、新一年生の就学前の経験実態と小学校単位に考えて見ると、その比率には多少の差は見られるけれども、大体次の三つの場合が考えられる。

新一年生全体の九十パーセント以上が幼稚園又は保育所を卒えている場合。

幼稚園、保育所を卒えたものと、家庭から直接入学して来たものが、半々程度に混っている場合。

殆ど大部分が家庭から直接入学して来たもので、幼稚園や保育所を卒えて来たものはほんの僅かである場合。

こゝに新一年生を送り込む幼稚園や保育所側の苦心があり新一年を迎え入れる小学校側の苦心があり、この両者の苦心が、幼稚園、保育所と小学校との連関問題に発展して来るのである。

幼稚園と小学校低学年との関連問題についての関心は最近非常に高まって来て、各方面で研究が積まれているが、現実には必ずしもその実績なり効果なりが挙がっているという段

階には立っていない。

幼稚園と小学校との教育計画（カリキュラム）は、幼稚園小学校を全体として考えられたものでなくてはならないという理論に誤りはない。たしかにその通りである。併しながら現実には先にもあげたように、理論通りには行かない実情である。

新入児童の九十パーセントまで幼稚園を卒えたものである場合には、この理論は可能であるかも知れない。しかも理想的に言えば、国立の幼稚園と小学校のような関係にあるとかその小学校に併設せられている幼稚園を卒えたものが、殆ど全部であるという場合に限定せられて来るのである。

現状のように幼稚園は国立や公立よりも、むしろ私立の幼稚園の方が多い場合には、私立の幼稚園を卒えた幼児は、幾つかの小学校に分散して入学していくのであるから、一つの幼稚園の教育計画（カリキュラム）が、幾つかのどの小学校にもうまく関連していくということは困難であろう。保育所の場合には幼稚園以上に教育計画に一貫性をもたせることは困難だと言える。

実際の場合を考えて見よう。ある学校の新一年生百人の中に、幼稚園を卒えたものが四十名。（その四十名は五つの幼稚園を卒えたもの。）保育所を卒えたものが一五名。あと四十五名は家庭から直接入学して来たものとしたら、受け入れ

る小学校側としてどうしたらいいだろうか、幼稚園と保育所を卒えた五五名で一学級を編成し、家庭から直ぐに入学して来た四五名を一学級に編成して経営することが果していいだろうか。無条件につきまぜて、五十名づつの二学級編成でいいのだろうか。この辺には未解決の問題が残されているように思われる。

幼稚園を卒えた子供は、一年に入つて、幼稚園のときの繰返しのようなことをやっているうちに、小学校をあまく見て興味が失われていくようなことはないか。

幼稚園の先生方からは、せつかく幼稚園で申しかけておいたいろ／＼の芽生えが、小学校に入つた途端に押えられてしまったという声になりはしないか。

小学校の先生方からは、幼稚園から来た子供は、行儀がわるくて、さわがしくて学級を乱して困るなどという声になつて出はしないか。

父母の側からは、幼稚園から来た子供ばかりが、学芸会や音楽会で活躍しているなどといった不満の声となりはしないか。

いま私は実際に起りつゝある声、又は起りはしないかと思われる具体的な問題のいくつかを思いつくまゝに列べて見たが、これらの具体的な問題の中には、幼稚園と小学校との連関についての大きな問題へのつながりをもっていることを、

みんなで考えて見たいと思う。

学芸会や音楽会に出る子供についての親の見方は、既に幼稚園のときから、多分に利己的な誤つた考え方があつた。これは幼稚園の先生方が、常に学芸会や音楽会の正しい在り方と意味、この見方についての正しい方向を親に向つて理解させる努力をもつと払う必要がある。わが子のことはかりを考へる親はまだ／＼多い。これが啓蒙はひとり幼稚園だけの問題でなく、小学校へも直結する大事な問題である。

小学校の先生方が、幼稚園を卒えた子供に対する見方は、時に表面的ならみがないでもない。日頃幼稚園の先生方がどんな計画のもとに、毎日の保育をどんな風に実践しているかを、十分に理解してもらつたことが何よりも先である。子供の生活経験をもとに学習指導をおし進めようとするならば幼稚園の保育の方法を、小学校一、二年にはもつとたくさん取入れたいと思ふ。それには小学校の先生方が、もつと幼稚園の保育の実際の中に入つて、共に研究を重ねていくことが必要である。幼稚園終了児が集団生活になれていくことが必要である。幼稚園終了児が集団生活になれていくので、さわぐとか、行儀がわるいとかいうのは甚だまずい。集団生活の経験のない家庭から直ぐに入学した子供たちにしても、なれて来れば元氣にふるまう素質はもつているのである。これは経験豊かな小学校の先生方の幼稚園を理解しての上にあつてのよき取扱いに俟つべきものであろう。

幼稚園の先生方は、自分たちの保育した子供たちが、小学校に入学して、どんな指導をうけ、どんな生活を経験して行くかについて十分の理解があるかどうか。幼稚園の教育が、もろ／＼の素質の芽生えを培って、人格形成への素地を指導しようとするならば、手がけた子供たちのつながって行く小学校の、せめても一、二年の実際を十分に理解していることは当然のことと言わなくてはなるまい。小学校一年の指導は自分達が幼稚園でやった保育の実際を延長したものでなくてはならないなど、決めてしまうことは早計である。そこで小学校における子供たちの活動の実際をひまの毎に見て時には一、二年担任の先生と研究会をもつて、両者の連関が無駄なく、なめらかに進められるように話合うことが大切である。幼稚園の先生方の忙しいことはよくわかる、併し自分たちの手がけた子供たちの進んで行く、小学校一、二年の実情を理解しないで、幼稚園での保育を考えることは片手落ちといわなくてはなるまい。

以上述べて来た問題の中には現場にいるものだけが、どんなにやきもきしても簡単に解決のつかないものがたくさんある。幼稚園教育が義務教育でないという理由で、問題の解決がおくれているようなことがあるとすれば、大きな間違いであって、就学前の幼児教育が本当に必要であることが結論づ

けられており、現に幼稚園への入園を希望するものが収容人員の何倍かになっているという実情を考えれば、これが対策は当然考究され解決されるべきである。口を開けば幼児教育の重要性を説きながら、一方ではこれに即応する対策が講ぜられていないのは誠に遺憾である。しかしながら、われ／＼現場にあるものは、幼児教育の効果を挙げることに工夫と努力を注いで行くことが与えられた任務であることを思い、幼稚園、保育所を終了した子供たちが小学校に入学して、その保育効果が無駄なく活用され、その上に小学校の教育が積み重ねられて行くような方策を研究し実践して行きたい。

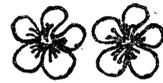
漫然と思いつくまゝを述べて来たが、幼児を小学校へ送り込む幼稚園の先生方は、日頃の保育計画の中に、小学校に行つてなめらかに学習指導の受けられるような基本的なことがらの生活指導を身につけておき度い。幼稚園 unnecessary論をさえ唱える小学校の先生もまれにはあるが、これが無理解の上での発言であれば暴言にすぎないが、われ／＼としては、幼児保育の効果を的確にあげるような努力が、更に一層払われなくてはならぬと思われる。

(城東小学校長・同附属幼稚園長)

× × × × × × × ×

# — 幼 児 の 社 会 性 —

樋 口 澄 雄



— 社会性について考えると、小学校低学年と幼稚園一年保育とは同じ時期にあるといつてよいと思う。したがってこの論では、小学校で努力している点と同様のことについてのべるようになるかもしれない。そしてこゝで望ましいと思うことは小学校の二年生あたりで完成したいものである。 —

## 一、群むれから集団への指導

端的にいつて、子どもたちが、四人、五人とグループになつてままごとをしたり、さまざまのごっこ遊びなどしているその心的方向を群むれ的なものから集団に高めたいということである。

ある子は小さなほうちようで菜をきざんで勝手しごとをしている。ある子はテーブルの上にさまざまの食器をならべている。そして別のある子は人形で遊んでいる。こうして一つ

のグループでままごとが行われている姿をみて、私たちはあつた遊びの中で社会性は培われていくとみている。事実、いろ／＼の角度の社会性は培われていくと思う。しかしこれを子どもの集団への心の傾きという角度からみて、それはより高次の社会生活に引きあげられているだろうかという問題がある。私たちが教育という目的活動をしている場合、こうしたグループの活動により速かに、より高い社会性を持たせるような指導の工夫が必要ではないだろうか。このことについて考えてみたい。

私たちは一がいに幼児は自己中心的傾向をもっているという。このことにまちがいがあるとは思えない。しかしこの自己中心的傾向を一日も早く社会性のある考え方、み方、行動のあり方に高めていくにはどうしたらよいかこの点について考えなければならぬ。その場合単に自己中心的傾向をそのままは認してそつあるのがあたりまえであるときめこんで、ノホホンとしている訳にはいかなぬ。そこでままごとでも菜をきる子、食器を並べる子、人形と遊ぶ子がバラ／＼に自己の欲するままに、たま／＼同じ場所で遊んでいるという行き方から、即ち一人／＼がバラ／＼で単に同一場所集まっているという、群むれ的あり方を、その子たちが共通の目的に統一された遊びの中に自己の立場を認識して遊ぶという集団的あり方に指導したい。このことは小学校でおうちごっこをする場合

も、お店こつこつをする場合も、強く要求されていることである。丁度三年生頃からのデスカッションでも同一問題について建設的発言を指導するのと同様である。

それには幼稚園でやっている「自由遊び」のあり方に、多少の問題やら工夫すべき点があるように思われる。「自由遊び」が子ども一人一人の欲する興味ある行動（遊び）を選択させるという原則がまま曲解されて、悉皆欲望満足主義的の方向にながれて、単に出来ごころ的衝動による興味の選択のまゝにおかれたり、友人の選択した遊びに流されて、追従的行動の赴くまゝに放置されたりしていることがないであろうか。このことについては、自由ということの解釈についても考えなければならぬ点もあるし、遊びという概念についても、考えをも一度まじめ直してみなければならぬのであるが、こゝではしばらくおくとしても、子どもの全生活を見渡して、又その子の性格をみた上での指導点などを考えて、遊びの種別について指導する必要がある。このことは干渉でもなく、束縛でもなく、指導のあり方であろう。次に教師の指導によって選択された遊びについて、グループを構成した場合、そのグループの人的構造を立体的に持つようにすべきであるということである。即ちグループの目的をはっきりさせ一人一人の子どもがその目的に対する行動のあり方（役割）を自覚させる方向に持っていくということである。いいかえ

れば、グループに構造と組織を持たせるように導くということである。このことについては、最初にのべたように小学校の段階において強く要望されているのであるが、もし幼稚園時代に個人一人一人のわがままの興味欲求の満足だけで遊びを指導しておいたら、その行動の傾向というか、場に対する体験による反射行動となつて、新しい指導がなか／＼むずかしいという場面につきあたるのである。したがつて、幼稚園時代に完全にこういう希望が達せられるとは思わないが、常にこういう方向に子どもたちを導き、考えさせていくことが大事なことだと思つてゐる。

「あなたのいましているたべものは、おとなりの〇〇さんにわたすのですか」といったように、グループ内の他の人々のしごととの関連や全体のしごととの関連を、つねによびおこすような指導が大切だと思われる。

こうしてグループが、群的あり方であるものを集団行動に高めていく方向に指導することが、幼児の現実の人間関係のあり方を知る社会性を育てるために大事なことだと思ふ。

## 二、しごとと事物の理解

前項では社会性の二つの大きな柱である「人間関係のあり方」についての一つの問題点をとりあげてのべてきた。この項ではもう一つの柱である「人と自然や事物に関して理解すべ

きことなら”のうち、しごとと事物の理解のことについて考えてみた。

私たちが社会性を育てるという場合、しばしば社会性と交際法といったことを混同して、大ぜいの中で即ち社会の中でどのように他の人と協力したり、責任を果したり、規律を守ったり、親切だったりというようなことだけに限って考えている場合がある。しかし私は子どもでも、社会の理解という知的な裏づけがないと、よい行動は生れてこないと思う。又そうした知的裏づけこそ大切な学校教育の分野でもあると思つてゐる。子どもたちが単なる思考なしの行動の重積によつてのみ、経験的に社会理解をするというだけではないかと思う。社会理解は幼稚園時代から十分考えていくべきである。もつとも社会理解といつても、社会科学の初歩を教えるといつたものでないことは論をまたない。もつと包括的、生活的に社会の理解の初歩段階を行うべきである。しかもそれは行動的、経験的であるであらうし、思考を伴つて行わるべきであらう。

子どもは大人のしごとそのままを遊びの中にとり入れながら生長していく。したがつて、ごつことか、ままごとが幼児の遊びの中に自然に入りこんでくるのは、子どもの自発的、自己教育といつて過言ではない。そして教育者はこの自然的な方法をとり入れてその方法体系の中うちこみ、その中で意図

的教育をしようとしてゐるのである。最近小学校の課程でもごつことをとり入れて教育活動に用いてゐるのは、こうしたところに着目したからである。

こうしたことを考えてみると、模倣遊びの取り扱いにおいて、私たちは教育的意図をどのように考えていくかをきめることが大切なしごとになつてくる。

そこで考えられることは、幼稚園のごつこ遊びが、やゝ遊びのための遊びに流されていられないかということである。家庭で遊んでいる自然の姿を園において、そのまゝやらせているといつてはいいすぎかもしれないが、教師の意図が少々かけていられないかと思われる。もちろん幼稚園が単に時間つぶしのおもひ程度に考えて、子どもに遊ばせているとは考えていないが、何か新しい教育思潮が入つてきてから、子どもの欲求や興味ということにおされて教師が臆病にあとずさりをしてゐるのではないかと思われるのである。同様のことは戦後の小学校の中にも多分にあるが、幼稚園はもつと前から新思潮をとり入れたので、こうした欠かんがマンネリズム化して入りこんでいられないかと思ふのである。子どもの興味とか欲求というものと教師の指導といふことの間には、むしろかしい判断や方法上の問題があると思ふのである。しかし子どもの興味や欲求の発生過程、表現などを十分考慮しないで、ことばやむすかりに負けては折角の指導がおぼつかない

と思う。しいていえばこうした欠かんの一ばん多くあらわれているものは、このごっこ遊びである。ぶらんことかすり台のように、単一の目的を持つ遊びはかんたんであるが、ごっこのように複雑した遊びでは、教師の意図的指導のいかんが、前にいった社会理解のいかんを決定する大きな要素になってくると思う。

そこで幼稚園においても、ごっこ遊びなどの中で、大人のしごとの理解ということ指導者側ははきり考えておし出すべきである。遊びはしごとと続く労働教育の道である。ごっこの中で父や母や社会の人のしごとを理解することを努めてやっっていくべきである。又さまざまな遊びの中で常に施設その他の事物の正しい理解ということを考えていくべきである。知は正しい行動の道しるべである。幼稚園は幼稚園ながらの大人のしごとの理解や社会的事物の理解を促して、子どもの社会性の豊かな思考や行動への基盤に培わなければ、新しい時代の教育にはならないであろう。

(西桜小学校長・同附属幼稚園長)



## 幼稚園からの

### 子供を迎えて

—幼稚園と小学校の一貫性—

小 原 武 雄



毎年四月になると、幼稚園を終えた子供たちが大ぜい小学校に入ってきて来ます。入学式の当日は晴々と喜びに満ちた母親が付添って参ります。うれしそうな子、はしゃぎ廻る子、得意そうな子、沈んでいる子、心配そうな子、泣き出す子……等々。

さて、この様々な子供たちを、これからどう指導して行くかということが、一年生担任教師の直面する現実の重大問題であり悩みであります。『近頃幼稚園から来た子供は、前とちがってどうもがさがさしていますね。どうしてこんなに落着きがないのでしょうか』と小学校の教師。『小学校に行っ。た子供は可愛相ね。遊び道具はたったボールだけ、それで毎日あいうえお、一つ二つのおかんじょう、次が何の時間、次が何々、もっと幼稚園らしくなければねえ……』と幼稚園の教

師。この両者の言葉の中に幼稚園並に小学校教育がどう関連づけられなければならないかの問題が潜んでいるでしょう。幼稚園と小学校とが相互に密接な関連を持たない限り、幼稚園教育が進歩すればする程、こんな言葉が多く出て来ると思っています。

幼稚園が学校教育体系の一環として、然もその出発点としては、きり学校の性格を持つようになった以上、少くとも幼・小・中学校は一貫した教育でなければなりません。子供の発達は一連の成長発展であつて、こゝまでが幼稚園、これまでが小学校、それから先が中学校などと限定されるものではないのであります。就中、幼年期の教育、即ち幼稚園、小学校低学年の時期に於ける教育は、その一貫性が無ければ幼児の人間形成の上に一生を通じてかけがえのない成長の芽生えを摘み取つてしまわないとも限らないのであります。

そこで、幼稚園と小学校との一貫した教育をするために、小学校から幼稚園に望みたいことを漁村の立場から——私の幼稚園でやっている實際を申し上げたいと思ひます。

### 千倉町忽戸幼稚園の概要

- 一、千葉県の南端、漁港として県下屈指の千倉町は人口九、八三三で漁業によつて生きる町である。
- 二、忽戸幼稚園は、小学校附属で併設されている。

三、小学校入学前の全幼児を収容する一年制幼稚園で、実際的には義務制である。

四、園児一五〇名。三学級編制。園長一、教諭三。園費は町費が園児一人当年額三、二四〇円。父兄の直接負担は月額一二〇円。

一、小学校に入学する園児の実態はどうか

一、幼稚園では園児の実態を小学校に知らせる幼児の実態と幼児の生活する地域環境は幼稚園教育の基盤であつて、そこから打ち立てられた教育内容・教育實際でなければ、如何に立派に見える幼稚園でも実は本物ではない。これは小学校でも全く同様である。従つて小学校では入学してくる園児の実態を知りたいのである。故に幼稚園では園児の実態調査が必要欠くべからざるものである。

私たちの幼稚園では入園頭初（四、五月）・中間（九月）・一年後（二・三月）の三回に亘り園児個々についての調査と全体的調査をして、一つには幼稚園で之を利用し、且つは小学校にも知らせている。然らばその調査内容はどんなものであるうか。

二、園児の実態調査の内容（漁師町の立場から）

#### 1 体位及健康

(1) 身長・体重の発達

病 氣	月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
	かぜ	一五	一一	三三	三四	六	一六	
はし		七	五〇	一六	一	三	三	
下痢								八

実例(一) 四月以降かゝった病氣 (昭和二八年度)

- 2 日常生活に現われた特色 (家庭生活の実態)
  - (イ) 主として幼児の養育に当る者
  - (ロ) 起床・就寝・睡眠時間
  - (ハ) 遊び (場所・一日の遊び時間・種類)
  - (ニ) お小遣い (金額・買喰い)
- 3 社会性の発達 (幼稚園生活の実態)
  - (イ) 幼稚園生活に現われた特色
  - (ロ) 社会性の発達
- 4 知能の発達
  - (イ) 読む力 (平がなのよみ)
  - (ロ) 数える力 (個物を数える)
- 5 性格の発達
  - (イ) 幼児の性質
  - (ロ) 幼児の興味

B	歯みがき	毎日 みがく	時々 みがく	殆んど みがかない
	二二	九九	二八	

A	顔あらい	毎日 あらう	時々 あらう	殆んど あらい ない
	二二	二八	一	

D	爪	よく切つて きれいい	普通	殆んど切ら ないで切ら ない
	一八	七〇	六〇	

C	頭髮	いつも きれいい	普通	いつも きたない
	三八	九〇	二一	

実例(二) 幼児の衛生状態 (昭和二八・四調査)

計	おたふくかぜ	うち身	疲勞	あつ腸	盲腸炎	肺炎	へんとうせん	腸カタル	腸カタル	気管支炎	むし	耳痛	頭痛	腹痛
二五												二	一	
六五						二						一	一	
五〇		一												一
四二		一				一	一							三
二二					一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
二四									二			一	一	一
一六		一					三					三	一	

E 鼻しる

きれい	普通	いつもたらし いてきたない
五四	六六	二九

G 服装

いつもきちん としている	普通	だらしが ない
五九	六五	二五

F 皮ふ

きれい	普通	よこれたりあか がついたりして いる
二五	一〇一	二三

この二つの調査から、幼児は活動的で健康そうに見えるが割合弱い。また衛生状態はよくない。これ等は漁師町としての生活環境から来る影響が大きいことが分るのである。

実例(三) 家庭でどんな遊びをしているか (四月調査)

まご	かくれ	三輪車	あや	まり	砂遊び	ぬりえ。め
四四	二〇	一五	一四	一四	一〇	んこ。木の
人形	絵本	水遊び	遊 <small>ごっこ</small> び	虫とり	かけ	つみ木。
九	八	七	七	七	七	六
その他						り。川遊び

まごごと・かくれぼなど簡単な原始的な遊びが多い。

実例(四) お小遣い(殆んどが買喰いに使われる) (四月調査)

金高	五	十	十	二	三	計	三	十	十	五	五
区別	毎日もらう	時々もらう	たまにもらう								
	二〇	六六	一九	七	一	二〇					
	二〇	二〇	七								

お小遣いは相当な額である。幼児時代から買喰い、浪費の好ましくない習慣がつくられているのが、漁村の大きな問題として取り上げられなければならない。

実例(四) 幼稚園生活に現われた特色 (四月調・九月調)

(1) 登園する	ひとりです 元氣よく くる	普通	ひとりです 登園でき ない
四月	三〇	八八	二五
九月	九〇	五七	一
(2) 自分で物を始末する	よく出来 る	普通	仲よく遊 <small>ぶ</small> ぶ
四月	三一	七五	三七
九月	五八	七三	一七
(5) 人のめんどりをみる	よくする 時にする	しない	
四月	一四	八四	四五
九月	二六	八七	三五
(6) 仲よく遊ぶ	くつもよ く遊ぶ	普通	仲よく しない
四月	一七	九五	三一
九月	五八	七九	一一

(3) 幼稚園の品物を大事につかう

九月	四月	大事にする	普通	らんぼう
四〇	一八	九三	九〇	一八

(7) 仕事に参加し協力する

よくやる	普通	参加せず協 力しない
一八	九〇	三五
五七	八三	八

(4) きまりを守る

よく守る	普通	守らない
一四	九九	三〇
四六	八四	一八

(8) よく腹を立て、けんかする

決してし ない	時にするこ ともある	よくする
二八	八六	二九
五七	七五	一六

(9) 人に迷惑をかけ、いじめ  
る

決して しない	普通	よくする
三二	八二	二九
七〇	六二	一六

(10) 教師の言をきかなかつた  
り、反抗したりする

よくき、 反抗しな い	普通	反対の言動 をしたり反 抗する
三三	九二	一八
八〇	六六	二

二、幼稚園でどんな指導をうけてきたか。

小学校でぜひ知りたい第二の点は、幼児が幼稚園でどんな指導を受けて来たかということである。これには次の三つの問題がある。

一、幼稚園で、どんなカリキュラムによって指導されてきたか。

小学校一年の教育課程は、幼稚園課程を基礎として発展的に構成されなければならない。そのためにはどうしても幼稚園のカリキュラムを知る必要がある。私たちの幼稚園は小学校附属で併設、然も全幼児入園であるから、両者の関連は比較的容易で問題は殆んど無い。所が独立した幼稚園で然も多種多様な色彩を持つ色々な幼稚園から入学してくる小学校では、相互の関連が仲々困難であろう。その方法は後に述べることにする。

二、どんな方法で指導されてきたか。

幼稚園と小学校では、指導方法乃至は教育形態が相当違つた面もある。幼稚園では生活単元による総合的指導がとられるが、小学校では主として教科を中心とした学習指導の方法がとられる。幼稚園では日課は定められてあるが、小学校の様に細かく限定されないし、また強いて之にこうでいする必要もない。又幼稚園では遊びや仕事を幼児自身が自由に選択してやる場合もあるし、やりたくないものはやらなくともよい。所が小学校で体育はやりたくないから、音楽はやりたくないからでは困る。斯くの如く相違した方法がとられるからその橋渡しをよししなければ、所謂木に竹をつぐ結果となり子供は迷い、教師はお互いに不平非難をもらす様になる。

三、どんな躰をされてきたか。

幼稚園が幼児の社会性の芽生えを養い、その生活態度を正

しく導くことをねらいとしており、正しい生活態度は躰であるといつてよいから、子供が幼稚園でどんな躰をされてきたかは、それが直ちに小学校にとって大きな問題となる。私たちの小学校で特に幼稚園に望みたいことは、次の事柄であった。

- 1 話しを聞く態度をつくつてもらいたい。聞きたい者は聞く、聞きたくないものは聞かない様な態度では困る。
  - 2 自分で考える態度を作ってもらいたい。近頃の子供は自分で考える力が乏しい。
  - 3 子供が学校生活に慣れるのはよいが、変に慣れては困る。
  - 4 子供に恐怖心を持たせない様にしてもらいたい。特に先生はこわいもの、叱るものなどの観念は絶対に禁物である。
  - 5 平がなの筆順の誤りを幼稚園で放任しておく、習慣となつて小学校一年での矯正に骨が折れる。
  - 6 左ききは幼稚園で出来るだけ矯正してほしい。
- 今迄述べ来たことは、幼稚園・小学校の教育を一貫させるために、必要な相互に連絡すべき内容に過ぎない。故にその一貫性を実現するためには、どうしたらよいかということが次に来る最も大切な問題である。
- 三、幼稚園小学校の連絡はどうしたらよいか。

幼稚園と小学校が相互に連絡することは教育の一貫性を確立する上に必要欠くべからざることである。そこでどんな仕方でも連絡したらよいか問題となる。之に対し、私たちのやつて来た實際を述べて参考にしてもらいたい。

一、幼稚園教師と、小学校低学年教師の連絡協議会を開くこと。

この協議会は少くとも毎学期一回は開くのである。こゝで幼稚園、小学校両者から夫々園児児童の實際や指導内容、指導方法等話し合い、又色々な問題や悩みに就いても話し合うのである。こうすると前節で記した様な多くの問題が出て、お互いに理解し、お互いに利益する所が極めて大きいのである。

二、平素授業の相互参観をする。

話し合いによつて或る程度相互の理解が出来るが、これは最も具体的な實際的な連絡の方法で、然も最も有効である。即ち我々は現場を見ることによつて、幼児生徒の實際も指導内容もはっきり知ることが出来る。そして、授業は平素そのまゝの授業であつて決して見せ物式であつてはならない。この授業相互参観は少くとも毎学期一回は必要である。

三、各種研究会は幼稚園、小学校低学年合同で催すこと。

昭和二十八年、千葉県内に於ける幼稚園教育研究会にはそれが県全体に於ける地区別に於ける、小学校へも案内状を出し

又小学校低学年研究会には幼稚園にも呼びかける様にした。又幼稚園、小学校低学年合同の研究会も開催した。これは誠に結構な傾向で、今後こうした研究会を益々充実発展させたものである。

X X X X X X

私は幼稚園を終えた子供たちを小学校に迎えるに当って、幼稚園教育と小学校教育とが一貫すること。そして、それには両者が緊密な連絡をとる必要があることを強く考えるのであります。さて、その連絡は一体誰がするのでしようか。云うまでもなく教師自身であります。ところが、お互いに連絡することそのことが、既にむずかしいことであるに違いありません。

けれども、これは必ずしなければならぬことです。連絡することは、幼稚園、小学校教師が幼稚園を知り、小学校を知り、お互いに幼児、児童を知り、教育を知ることでありませぬ。然らば、連絡するということは結局教師自身の研修であり、教師として自己を太らせることになります。

そして、斯くの如き教師でこそ幼稚園教育を、又小学校教育を本当に実践し得る立派な教師であると思えます。私は幼稚園教師並びに小学校低学年教師に、今年は必ず相互に連絡を実際に行う様おすゝめいたします。

(了)

(千葉県千倉町立忍戸小学校長・同附属幼稚園長)

## 教育実際指導研究会

題 幼児の生活経験と環境

期 昭和二十九年六月二、三、四日

会 場 お茶の水女子大学

詳細は次号に掲載いたします。  
昭和二十九年三月

主催 お茶の水女子大学

児童教育研究会

幼児教育研究会

協賛 お茶の水女子大学文教育学部内

教育研究室

### 訂正及びお詫び

幼児の教育第五十三巻第三号(三月号)中、玉川喜代子先生の「私が見た三十九年間の保育界のあれこれ(福島県)」の文の三十九頁と四十頁は、逆になつております。

筆者並びに読者の方々に大へん御迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたしますと共に謹んで訂正いたします。

## 乱暴な子供



出席者

松村 康平  
吉野 弘子  
平井 信義  
津守 眞子  
村瀬 祥子  
及川 泰介  
水原 泰介

(発言順)

どこの幼稚園でも、色々の問題児といわれる様な子供があるのですが、今日はこれらの子供のケースを取り上げて、その解決を如何に計ったらよからうかとの意図で、こゝに、或る乱暴な子供について、実際その子供を指導していられる吉野先生、村瀬先生の二人の先生から、先づその子供の家庭、性質、知能検査の結果、問題点等のいろいろな角度から検討していただき、それを各先生方に診断していただくことにしましょう。

## 問題

松村 では出来るだけ詳しく話していただきたいのですが、その子の家庭は――

吉野 その子供というのは、満六才の男の子ですが家庭というのは、中流サラリーマンの家庭と云えるでしょう。御両親の外に妹さん二人、お母さまが勤めに行つてらっしゃるの外に十五、六才の女中さんがいます。

松村 父母の学歴と云いましょうか、教育程度は――

吉野 お父さまは、某大学卒で、お母さまは、或る女専を卒業されていて、インテリ層なのです。

松村 その子供の知能指数は――  
吉野 一四です。

松村 体の方は大丈夫なのですか――  
吉野 え、丈夫でまだ一日も休んでおりません。

松村 ではこの子供に問題があるとお感じになられたのは、何時頃からののですか――

吉野 入園のテストの時からです。面接のとき、全然落ち付きというものがなく、一言何か聞いても、室中かけ廻つてしまつたと云つた様でした。

平井 一番目につく様なことは、どんなことですか――

吉野 乱暴なのです。そしてそれが危険なともなつておりまして、大きな石や、積木を投げるのです。それにもう一つは清潔感が無いのです。

津守 衣服はどうですか——

吉野 衣服ですか——衣服もそうですし、人がうがいをした水で手を洗ったりしまして平気ですし、したがって、人につばをはきかけても、なんとも思っていないのです。それに言葉なども全々乱暴なのです。

平井 どんな言葉をつかいますか。

吉野 この野郎とか、おまえ、おれっち、とか、どこで覚えて来たかと思われる様な言葉です。

津守 他の子供は幼稚園でそんな言葉を使いますか。

吉野 殆んど使いません。

松村 入園してから現在まで何ヶ月ぐらいたつのですか——

吉野 八ヶ月です。満六才なのです——

松村 その落ちつかないというのは、入園してからずっと一貫して変わりませんか。

吉野 はあ、この頃少しは落ちついて来ましたが……

津守 まあ、乱暴と云ってもよくわかりませんが、例えばどんな……

吉野 原因というのは別にないと思います、が、たいてい発作的なのです。

平井 男の子にですか。女の子にですか——

吉野 大い男の子にですが、あまり区別をしません。で隣りにすわることをどの子もいやがっています。したがってきまっただお友達もないのです。一番驚いたことは、トンネルと云って、直径一米位の土管があるので、その上にどうして運んだものか、大人の頭ぐらいの大きな石を運んであって、その下を通る子供に投げ落すのです。別に喧嘩したというのではないのですが、他人の遊びを破壊しようとするのでしょうか——全く原因というものがわからないことが多いのです。

でも幸いにその時は石が当らなかつたのですが、そのクラスの子供たちは、皆驚いていた様でした。

平井 今迄同様なことで危害を加えたことがあるのですか——

吉野 お互いに鼻血を出したり……そして積木などを投げたりしますので……でも殆んど当たったことはありませんが……

村瀬 積木など投げる場合でも、別に友達に投げ様としてではないのです……でも乱暴に扱って投げますのが……。

吉野 別に目的があつてするのではなくて

たゞめちやくちやな行為をするのですね。

津守 お集りの時の様な、集団行動の時はい……。

吉野 集るには集まりますが、椅子に真直ぐに坐らないで、落ちつかず、常に体を動かしていますので注意しても聞かないのです。そしてお友達に云われると、余計意地になつてしまふ時があるので……。

### 長所及びその他の特性

及川 その子供の長所と思われることは何ですか。

吉野 或る一つ事をやり出して、気が向けば非常に良くやり独創性があると思います。他の人がやらないことでも、自分は一生懸命やります。でも、ほめるといけないのです。室中暴れ出してしまふのです。

松村 では、この子の良いところがなにかありませんか。

吉野 それは、むらがあります、小さい組のお子さんに対しては、お仕事で自分が知っている時など、親切にその仕事を手伝ってやったりするのです。

津守 一つ事を始めると一生懸命やると云

われましたが、その例はありますか——

吉野 例えば、玩具屋さんをしたときですが、電車を作るのに、そのパンタグラフを作るのに、とても熱心に、工夫してやっていたことがあります。また絵を画くときなど、自分の好きなものだとよく画くのですが、気に入らないときだと殆んどい、加減にするので

す。

松村 うたはどうです。  
吉野 リズムが全々とれないので、歌は調子はづれの大きな声なのです。音楽リズムは嫌いなので、こんな時一番落ちつかなく、ひどいのです。並んで先頭にしても、中にしてもまた終りの方にしても、騒いでめちゃくちゃにしてしまうのです。

平井 そういう時の子供の顔の表情は、又は目の——

吉野 少し興奮している様な気がします。

村瀬 自分でふざけた時、皆の注目を受ける時は、少しは嬉しそうなのです。皆がスキップしていたりする時、自分だけが寝ころんだり、高く飛びはねたりして皆を笑わせる時があります。

平井 ふざけるのは、そんなに上手なので

すか。

吉野 いえ上手という程ではないんです。

松村 友達はい——。

吉野 今決つた子がありません。席をきめると一週間のたぬうちに、隣の席になったお子さんの親から苦情が来ます。(—笑—)物を乱雑にしておき、クレヨンなどもすぐ折ってしまいます。そんな風ですので、クレヨン箱の名前の貼紙などすぐはがしてしまいます。それから一度劇をやったことがあります。それは「お月見」といって、兎のお面をかぶって、兎になった女の子達のことを——兎を喰べてしまふ——と云って騒ぎ立てたりしました。そして劇に自分が出たりする時なども、そのセリフにないことを云ってしまつて——。

### 家庭と幼稚園の指導

松村 ではこの辺で、今度はその子供に対して、どういふ風に幼稚園で指導なさつたか。又、その子のお母さまから伺つたことから、家庭ではどうだったか話して頂きましょう。

吉野 お母さまは或る短期大学の被服の先生をしていらつしやつて、月曜日と土曜日と

だけ学校がお休みですが、一学期のときお母さまによくお伺ひしたところ、家ではすでにサジを投げたと、涙を出されてしまわれたことがあります。お父さまはいくらか厳格なのですが、はじめの家庭状況調査表に、家では放任主義、幼稚園への希望は厳格にして下さいとありました。——何と云つても馬耳東風なのです——とお母さまは云つていらつしやるのです。たゞ妹さんの面倒はよくみるらしく、一緒に踏切りを渡る時も、手を引いてやり左右をよく見てから渡ると云うのです。ですから注意力が全々ないとは、云えないと思うのですが……。

そして、助手の先生が或る日その子を抱いてやったことがあるんです。そしたら——僕を抱いてくれたんだね——と云つて、とても喜んだことがあるのです。だから家庭ではあまり抱いてやると云うことも無いのではないかと思われるんですね——。

及川 食事の時はどうですか——

吉野 御飯は一生懸命食べます。でも廻りにきたなくこぼすのですよ。始末するということが解らないのですね——

及川 身体の方は？ 發育状態は如何です

か。

吉野 よい方です。

平井 生活史というか、今迄のその家庭歴  
というようなものもわかりますか。

吉野 そういう事は余りわかりません。最  
初四国にいられたそうですが、その頃は親の  
愛情も充分にかけてやっただけです。

平井 お父さんはどんな方ですか。

吉野 お逢いしたことはありませんが、話  
によると厳格だそうですね。

津守 もっと話していた方がいいとまだよ  
く解りませんが、どうしても家庭に問題があ  
りそうですね。

水原 お母さまはどんな感じの方ですか。

吉野 身体の大きな粗野な人です。

平井 お父さんとお母さんの仲は……。

吉野 さあ……(笑)

津守 家ほどの辺ですか。環境は——。

吉野 Yというところで、電車通りのそば  
です。

平井 御きようだいはい——

吉野 三人です。すぐ下が年唄の妹さんが  
いるのです。

松村 家庭の事情などまだはつきりしない

ところもありますが、そのことはこの程度と  
しまして、どうですか、受持たれて以来その  
子はどんな風に変つて行つたのでしょうか。  
またどんな風に指導されて来ましたか。

吉野 はい、好きなものを与えたと一生懸  
命にやるといふ点に目をつけまして、先ず好  
きなことをさせて見ようといひました。

平井 結果は——

吉野 え、多少は良くなったと思います。  
例えば一学期から二学期にいたつても、靴の  
上履下履を全々区別しないで、ドロ靴で部屋  
に平気で上つてしまつたものが、今では漸く  
それを区別する様になつたのです。私もずい  
ぶんきびしく云つたものですから——。でも  
私が見ているところでは良くなったのですが  
やはり他の先生の時は、今でもやっぱりだめ  
なのです。そして一番だめなのは、音楽リズ  
ムの時なのです。今でも全々だめです。

どう解釈するか、どう指導した

らよいか

松村 そうしてみますと、個別指導された  
時に効果があつたこと、それに先生との  
結びつきが出て来たといひえるわけですね。

では、今度はまとめて、この子供はどんな  
性質か、又その問題はどんなところにあるの  
かを、こゝに心理的、医学的に綜合した子供  
の姿をまとめて行つてみましょうか。

平井 でも個別指導した結果、はたして成  
功したと考えられるでしょうか。

松村 それはわかりませんね。

津守 解決はしてないと思いますね。

平井 幼稚園で、先生が今迄その子供を観  
察されてこられて、その落つているシテュ  
ーションを發見なさつて、その与える面が  
先生にお解りになつたのであつて、その子供  
の性質が變つたとは思えない。

吉野 何か子供が行きづまつた時に、ピン  
トを与えれば、よい様に思えるのですよ。そ  
んな点でも幾分は良くなったと思います。

平井 集団生活では——

吉野 友人間の關係でも、その子供は他の  
子供達により統制を受けるのではないでしよ  
うかと思つてます。

津守 自分の働き場というものが得られて  
いないのだと思つてますよ。自分の興味をそ  
るものを与えると、それに集中するが、そ  
の他のものでは、自分の働き場が得られない

という点に原因があると思うのです。それは家庭をもっと良く調べれば、そこに何らかの原因があると思うが、恐らくは邪魔物視された事が多くはなかったかと思えます。そんなところにその子供の働き場が与えられていなかったのです。子供が両親との関係、きよらだいの関係において、その互の間に愛されたり、愛したりする関係がなかったと思うしそんな色々な点から原因があると思うのです、どうでしょうか——

**水原** もう少しお尋ねしたいのですが、その子供が、最初他の幼稚園にいられたと云われますが、他の幼稚園ではどうだったのですか——

**吉野** Y幼稚園に来る前も、やはりすこつたらしいのです。前の幼稚園の先生に——こんどおたくのY幼稚園に、すごい子供が行きますよ——と云われました。(笑)お母さまも、たしかにその御きようだいの中で、下のお子さんばかりに偏愛していたというところもあったと、今では後悔なさっていられるそうです。

**水原** 服装はどうですか——

**吉野** あまりかまわない方なのです。靴も

破れても破ればなしなのです。

**平井** お母さんや妹さんはどうですか——  
**吉野** 別に変っていません。お母さんも他人より落ちついて、目立たない位です。

**松村** どうも家庭に原因がある様ですね。でも家庭と幼稚園での態度に、あまり変化がみられない点から、この子は、かなり固い性質をもっている子供ですね。家庭にあって幼稚園にあって同じ、またいくら先生がしかつても同じというような点などから……：性格がかたいといえそうに思うのですが。お話から察して、この子は普通の子供達のような、嬉しい時嬉しいようにふるまうことを知らないのではないですか。また表現の仕方がまわりに受け入れられないのだし、また本人自身表現の仕方をあまり知らない。思い込みが強いとか、物にこだわるのではなく、自分に合うものを好むが、物を大切にしないということなど、つまり——その過程を楽しみ、その結果はどうでも良い——といった傾向を示しているのではないのでしょうか。しかし、またもう一つ、先のお話から、自分より小さな子供に対しては親切にするという点で、未だその子供に——友人を作る——という望み

は開かれていると思うのですが。

**津守** 友達の間心を集める表現の仕方を知らない。その為に友達関係が破壊するといったそんなところから、自分の働き場を得られないために乱暴をする。乱暴をして自分の場をそこに切り開いて求め様とするのではないのでしょうか。

**及川** その子が信頼して、頼ってくると思われることはありませんでしょうか。

**吉野** 自分は家ではこう思われていると、根強く思っているらしい。最初私が指導にあつた時、その子だけが離れてしまつてためであつたが、最近では自分から進んで私の方に近づいて来るようなこともあるんですよ。  
**及川** お母さんが手一ぱいなので、せめて幼稚園の先生がその子との間を断たず、その子の気持を和ぐ様に自分の居場所をみつけてやりたいですね——

**平井** やあ、非常に暖かい御意見が出ましたが、また別な見方もあると思うのですよ。家庭というものに重点をおくとすれば、これは余程家庭環境が悪いと思われるのです。もつと突込んで家庭というものを調査する必要がありますね。生活史を聞きたいが、普通の

子供と違うと思います。

松村 水原先生、どこを捉えたならよくなるでしょうか。

水原 子供同志の関係が尙むつかしいですが、これを何とか整えてやったら……と思います。

及川 近所から同じその幼稚園に來ている子供とも仲がわるいのですか。

吉野 私が一緒に入って遊べば皆も安心して遊んでいるが、私が抜けると、すぐ喧嘩になるし、實際腕力も強いのですが駄目になるのです。

及川 幼稚園位の年令だと子供自身で計画的にグループ遊びをさせる事が無理なのでですね。

水原 幼稚園によって、グループ遊びの量もぐっと違いますが、一人の子供対、一人の先生、というのが、却って子供達同志のつながりをさまたげていることもありませぬ。

津守 一枚の大きな紙の上に二、三人の子供で絵など画いて、共同作成などやらして見たら——そんな課題からすゝんで入れないでしょうか。

吉野 遠足に行ったときその紙芝居を作っ

たことがあります。それも二、三人で作る様になつていたので、その時も駄目でした。自分が人の前で話することも出来ないのです。

水原 何か協力しないと出来ない遊びがあるとい、ですな。

吉野 自分から遊びをさそう時もあるんですけど——でも、例えばジャンケンずもうをしよると自分から云い出しても、賛成者が誰れもいないと云うことになるので……、他の子供がその子は違う子供だと思つていらしいのですな。

村瀬 でも、小さい組の子供にはやさしい気持で接し、また小さい組の子供達も、いちめられるなどとは思つていないのです。

津守 これから一ヶ月、二ヶ月なり、年少組に入れてみたらどうですか——。

松村 いや、年少組に同列で入つては駄目でしょう。何か役割をもつて認められていないと——。

平井 自分の興味が保たれている場合は安定しているけれど、そうでないと小さい組に入つても駄目でしょう。

村瀬 小さい組にいと面白いのでい、

でしよう。自分本位に或る程度なるからだと思います。

松村 思い込むと動けない子だから、立場を変えてみるのもどうでしょうかね。

平井 からの固い子だからそういう事にも応じないのではないだろうか。——

津守 社会的精薄かな……

平井 うん、私はそう思つて居るのです。それに「固さ」という点について、先程から考えて居るのですが、これ程の固さをもつて居る子供は、その家庭に余程の何かの固さと云うものがなければ、出てこないはずだと思うのですよ。

津守 松村 たしかにそうだと思いますね。津守 何年間か計画的に指導したら、ほど

けてくるのではないかと思えますね。吉野 でも私は最近個別指導にばかり良い

点があるのではないと思ふ様になりました。例えば、その子に好きな事ばかりをさせる事によつて、何時までも社会性というものになれないのではないかと懸念して居るのです。

松村 それは一人一人の個性を重んじながら、しかも集団指導に重きをおくといひ

み

の一斉保育ですね。

吉野 そうです。

平井 家庭に原因があるとして、そちらに手をつけるか、或は社会性の精薄と見て、特別なカリキュラムをたてるか、そんなことが必要だと思えますね。

津守 しかし、その子を特殊児童として扱うということは危険であるとも考えられる場合があるのですよ。昭和二十一年頃、私が保育していた子供に、やはりこれと同じケースの子供があったのですが、それから三年ぐらいたったら、全くなおってしまつて普通の子様におとなしくなつてしまつたのです。だからその子が将来大きく成長してゆくにづれて變つてくる場合もあるのですから……。

平井 このケースが自然発生的なものか、家族関係に原因があるか、とにかく、その家族関係をよくみることに重点をおくべきだと思ひますね。異常児という大げさになるがはみ出し易い子供と云いましょうか——。

松村 まあ将来は母親やその家庭にも目を向けなければならぬのですが、でもこれは難かしいのですね。さしあたり、現在出来ることは、その子がやりたい事を止めるよりは

やりたいことを短時間中にやらせてしまつて

その時先生もそれに入つて、一緒に遊んでやる。そしてその場の中で、これは悪いことですね。あれは良いことです。或は、あゝしてゐる時は嬉しいのねと、その時々にその子に教えてやる様にしたら良いと思ひますね。

平井 家庭ですぐにしかるといふ風であつたから、二重性があることになりませうね。

松村 しかし二重性があつても、幼稚園でよい形が出来てくれれば、頭は割によいのであるからそれでよいのではないのでしょうかね。

津守 それに責任を持たせると、より積極性が出て来るのではないのでしょうか。例えば花瓶の水をかえさせたり、当番をやらせたりして、後で皆の前でほめてやると云う様に——

及川 その様なことをしてみましたか。

吉野 え、そういう事もしたのですが……また皆の前でほめたこともありませうが、そうすると、またあばれてしまひ——。私はしからぬ主義ですが、余りひどい時は他の子供が出してくれと云うので、二、三回室外に出したことがあるのです。家では体罰を加えて下さいとおつしやつてゐるのですが、それまはどうも……。

平井 集団の中で一人を扱うのは難かしいが、何しろクラスが少なければ良いのですが、何しろ四十八人もゐるので……。

津守 一度家庭に質問紙で質問してみたらどうでしょうか。生活史を聞くとか……。

松村 今迄話し合ひました中で、家庭調整の問題やら、またその子を特別な子として扱つて、カリキュラムを考えたと云つたことなど、いろいろと出ましたが、今度は直接その子供をこの児童研究室に連れて来ていたゞいて、もつと深くその問題を解決してゆく様に努力しましょう。

吉野 いま一番心配してゐるのは、そのお子さん一人のために、あとのお子さん達に与える影響は、将来非常に大きなものがあるのではないかと心配してゐるのですが……。実際もう他のお子さん達に与えた影響がぼつぼつ見えて来てゐるのですよ。言葉などは直ぐですから……。

津守 幼稚園は社会の縮図だから、やはり放任にさせないで、善悪の判断をよくしこまねばならないと思ひますね。

松村 では大部時間も経ちましたから……この辺で……どうも有難うございました。



# 小学生にみられる

## 幼稚園経験の有無による差異

—情緒性と友人関係よりみたる一調査—

### 關 治 子

#### 1、問題点

小学校入学は、子どもにとり大きな生活の変化である。子どもがこの新しい生活に適應して行く際には、情緒的に相当動揺すると予測出来、極端な場合には問題行動をとったり問題児となる。入学児の不適應は、その子の人格形成の上に大きな禍根を残す。小学校入学という新しい出発点において、子どもの中には、幼稚園に通い就学前教育を受けていたものとそうでないものがある。このように条件の異なる子どもが如何に適應し順應して行くか。彼らはどのような精神的緊張を体験しているか。それらを知る為に以下に述べる方法で情緒性の動揺が幼稚園経験児と非経験児ではどの点で如何なる差異を示すかを見た。その際に友人関係と、情緒性とがどのように関連し合っているかを併せ考察した。

#### 2、方法

A、質問紙法

B、情緒性検査

次に掲げた二種の質問紙を公立某小学校の学童一年から六年まで計二六〇名に実施した。そのうち幼稚園経験児一四四名、非経験児一一六名である。

#### 3、結果

現在の情緒性の動揺には差異がなく、入学時の情緒も喜びや希望については差異がないが、心配、不安、恐怖の点では、心配について、幼稚園非経験児の方に心配だったと答えた人数が多かった。不安については、幼稚園経験児の方が不安の念を持ったようであり、恐怖については、経験児の方がこわいという答が多かった。

友人関係については、入学時に幼稚園から来た者は幼稚園から来た者と遊び、現在仲のよい人も幼稚園から来た人と仲が好いというのが多い。非経験児には規則的な差異がみられず、何れも差は不規則であった。

#### 4、今後の問題

情緒性の面で、幼稚園、小学校では現在、どのような指導教育が

(A) 質 問 紙 法

ねん	なまえ
----	-----

つぎのしつもんを よくよんで こたえてください。

こたえかたは、おもったとおりのところを□□でかこんでください。

- あなたはようちえんか、ほいくしよにかよっていましたか。  
かよっていた。  
いかなかった。
- 小学校にはいったとき、いろいろなことがしんばいでしたか。  
しんばいだった。  
しんばいでなかった。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、なれないことがおおくてこまりましたか。  
こまった。  
こまらなかつた。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、先生はこわい

---

- 小学校にはいったとき、小学校はようちえんや、うちであそぶのよりおもしろいところだとおもいましたか。  
おもしろいとおもった。  
つまらないとおもった。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、まいにち学校にいくのが、うれしくてたまりませんでしたか。  
うれしくてたまらなかつた。  
いやでたまらなかつた。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、よくべんきょうしようとおもいましたか。  
おもった。  
おもわなかつた。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、2ねん3ねん4ねん5ねん6ねんの人のいうことをよくききましたか。  
よくきいた。  
よくきかなかつた。  
おぼえていない。

とおもっていましたか。

こわかつた。

こわくなかつた。

おぼえていない。

- 小学校にはいったとき、ようちえんからきた人は、ようちえんのともだちとばかりあそんでいましたか。  
ようちえんの人ばかりとあそんでいた。  
そんなことはなかつた。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、すきな人とよくあそべましたか。  
あそべた。  
あそべなかつた。  
おぼえていない。
- 小学校にはいったとき、ようちえんからきた人がいばっていましたか。  
いばっていた。  
いばらなかつた。  
おぼえていない。

- 小学校にはいったとき、いっしょにあそぶともだちがなくてこまりましたか。  
こまった。  
こまらなかつた。  
おぼえていない。
- 今、あなたとなかのよい人は、つぎのうちどれですか。  
ようちえんからきた人。  
ようちえんにはいかなかつた人。  
うちがちかくの人。  
そのほかの人。
- 今、あなたはようちえんはよいところだとおもいますか。  
おもう。  
おもわない。  
わからない。
- ようちえんにいってよかつたとおもようちえんにいきたかつたいますか。  
おもう。  
おもわない。  
わからない。

(B) 情緒性検査

ねん

なまえ

つぎのしつもんをよくよんでこたえてください。こたえかたは、おもったとおりのところを○でかこんでください。

1. なにかにおいかげられるゆめをみますか。  
みる。みない。わからない。
2. なにかかいたいときどうしてもかいたくなりますか。  
なる。ならない。わからない。
3. ひとつみのなかで、おしつぶされはしないかとしんばいしますか。  
する。しない。わからない。
4. ああすればよかったとよくおもいますか。  
おもう。おもわない。わからない。
5. 人から、ああしろ、こうしろといわれるのがいやですか。  
いやだ。いやでない。わからない。
6. あなたははづかしがりやですか。

7. きびしくなるときがよくありますか。  
ある。ない。わからない。
8. 先生のしつもんにわかって、てがあげられないことがありますか。  
ある。ない。わからない。
9. あなたは、じぶんのようふくやみなりがきになりますか。  
なる。ならない。わからない。
10. じぶんのうわさをされるのがきになりますか。  
なる。ならない。わからない。
11. あなたはいやなあだながついていますか。  
ある。ない。わからない。
12. 女の人は、おとこの人だと、はづかしいですか。  
はづかしい。はづかしくない。わからない。
- おとこの人は、おんなの人だとはづかしいですか。  
はづかしい。はづかしくない。わからない。

13. あき、おきたときよくねたとおもいますか。  
おもう。おもわない。わからない。
14. あなたはあわてますか。  
はい。いいえ。わからない。
15. どうしようかとまようことがよくありますか。  
ある。ない。わからない。
16. いろいろなことがしんばいでたまらないことがありますか。  
ある。ない。わからない。
17. しんばいしないのに、なにかがよくできないことがありますか。  
ある。ない。わからない。
18. 人のまえで、はなすのはへたですか。  
へた。じょうず。わからない。
19. 先生やよその人のまえだと、むねがどきどきしますか。  
する。しない。わからない。
20. あまりやりたくないことをやろうといわれると、ことわれませんか。  
ことわれない。ことわれる。わからない。

為されているであろうか、又、友人関係の発達のみに調査が、試みられているだろうか。

現在、幼稚園や保育所で就学前教育の経験者は全国で一五・六%認可のない所を入れても二〇%にすぎない。従って約八〇%はすぐに小学校に入学するわけである。これらの児童が小学校で、個々に適切な指導を受け、適切な人格教育を受けていればよいが、それは、子どもたちのこれまでの生活を知り、適応の状態を把握することが必要である。私の試みた調査は、小規模であるが、質問紙の適用範囲が必ずしも適当でなかった。これらの不備な諸点を考へて情緒性、友人関係を通して幼児教育の場を見出したり、その他この調査が諸研究の何らかの手がかりにでもなれば幸々と思っている。

(お茶の水大附属幼稚園教諭)

# 幼児の スモック一案



柳 沢 澄 子

幼い子どもの生活は大部分が遊びであつて、この遊びの中で心身の発育がいとなまれます。上肢、下肢を思う存分動かして、一ときもじつとしていない生活、この元気な生活活動をさまたげないように服を着せたいものです。

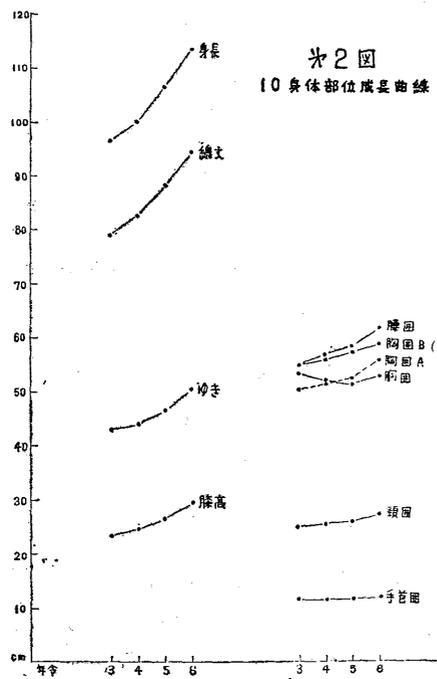
それには子どもの体型と動作に適した形や組合わせの服であることが必要ですし、また汚しても洗濯しやすく、洗濯しても色がさめない、生地もいたまない、形もくづれないという服が望ましく、こういう条件をそなえたきものは親にも子にも何より嬉しいきものでありましょう。

きゆうくつな重いきものは、上肢、下肢の運動をさまたげ、血液のじゆんかんをわるくし、自由にのびのびと跳びはねることをさまたげます。バンドやパンツのゴム紐のきついのや、腋下や腋下のきゆうくつなのは、何となく気になるものです。しかしまた服はゆつくりしすぎても動作の自由をさまたげます。二年も三年もそのまま着られるようにと沢山のゆとりを入れて作つたり、大き過ぎる服を求めないで、子どもの実際の寸法に従つ

の平均値・標準偏差・範囲・増加量(単位cm)調査(昭和23年)

4歳				5歳				6歳			
51cm				47cm				55cm			
平均値	標準偏差	範囲	平均値の増加	平均値	標準偏差	範囲	平均値の増加	平均値	標準偏差	範囲	平均値の増加
100	4.0	90~112	3.5	106.5	4.7	96~116	6.5	113.5	4.2	106~122	7
82.5	3.8	72~92	3.5	88	4.4	80~96	5.5	94.5	4.1	86~106	6.5
24.5	1.4	21~28	1	26.5	2.0	23~31	2	29.5	1.7	26~34	3
4.4	2.0	40~50	1	46.5	2.4	42~52	2.5	50.5	2.4	46~56	4
51.5	2.4	46~56	1	52.5	2.7	48~58	1	56	2.6	52~62	3.5
56	1.8	50~60	1	57.5	2.8	50~64	1.5	59	2.9	52~66	1.5
52	2.4	48~58	-1.5	51.5	2.6	46~60	-0.5	53	2.9	46~60	1.5
57	2.7	52~64	2	58.5	2.6	54~62	1.5	62	2.7	56~70	3.5
25.5	0.9	23~28	0.5	26	1.1	24~29	0.5	27.5	1.3	25~30	1.5
11.5	0.5	10.5~13	0	11.5	0.6	10.5~13	0	12	0.6	11~13	0.5

講座

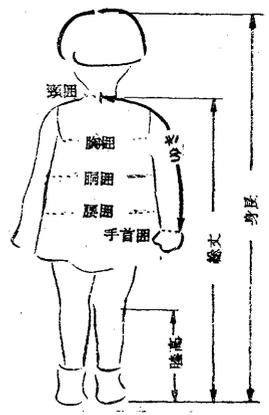


★2図  
10 身体部位成長曲線

第2表

	総丈 a	膝高	a—4 歳の着丈
3才	55.5		5.5
4	58		8
5	61.5		11.5

て、毎年その子の体に合った服を着せる工夫が必要で、最小限の必要数と手入れの計



大体の傾向をみるのには役立つでしょう。

画、大きく直すことの出来るデザインの工夫など、計画的に子どもの衣生活を設計することにより、簡単に成長に応じた服を着せることが可能でありましょう。  
 それでは、幼児の体はどのような発育を示すでしょうか。一例としてお茶の水女子大学附属幼稚園の女児について、身体計測を行った結果をみますと次のようであります。この調査対象は限られた範囲の子どもたちですが

第1表 お茶の水女子大学附属校園女児

		3才 8人		
		平均値	標準偏差	範囲
身長		96.5	3.0	92~102
総丈		79	3.4	74~86
膝高		23.5	1.2	22~25
ゆき		43	1.5	40~44
胸圍 A	(裸体)	50.5	1.1	50~52
胸圍 B	(下着の上から)	55	1.1	54~56
胸圍	( )	53.5	2.1	50~56
腰圍	( )	55	1.5	52~56
腕圍		25	0.8	24~26
手首圍		11.5	0.6	10.5~12

身長は三才から四才迄で平均約三・五種四才から五才迄で約六・五種伸び、それから小学校に上る迄の一年間に約七種伸びていることがわかります。服に関係のある総丈でも大体同じ位の増加を示していますが、次にこの総丈と膝高との差(a)をみますと第2表のようであります。服の着丈は身長を基にして割出すのが便利で普通子どもに着丈は身長の一・二としますが、今四才の平均着丈五〇種

と各年令の(a)とを比較してみますと、第2表に記入の通りであります。つまり各年令で膝上何糎のところの裾があるかを示しています。四才で丁度よい服の着丈(膝上八糎ぐらい)は三才では膝上約五糎で長すぎ、五才では約一二糎ほどになり短かすぎます。このようにぐんぐんのびる身長に応じるためには、勢い裾に折込みを多く入れたり、時には裾に揚を作ったりする工夫がとられ勝ちですが、裾を重くして、服の重量を増すことは、小さい子どもにとって迷惑なことはいふ迄もありません。

ゆきについては、平均値の増加は三才から四才迄で約一糎、四才から五才迄で約二・五糎、それから小学校に上る迄に約四糎も増しますが、着丈と同様なるべく袖先を軽くして成長に応じて別布を足して行く工夫が望ましく、手や腕の運動を出来るだけきまげないようにしたいものです。

胸囲B・胸囲・腰囲は合の下着を着けた上から計測したのですが、胸囲についてみますと、四才の平均値は五六糎、標準偏差一・八糎であります。つまり五六糎を中心として

その前後に一・八糎を増減した範囲約五四糎から五八糎の間に全体の約2/3が含まれる訳であります。五才の平均値は五七・五糎、標準偏差二・八糎であります。各年令の平均値の増加一糎及び一・五糎より、同年令間の個人差の方が大きいことがわかります。

尚小さい子どもは、案外頸囲が大きく、手首も太いことが第1表からうなづけます。服を作る時これ等に應じる寸法上の考慮が必要になる訳であります。

以上体型とその發育状態を服に関連して簡単に考察してみました。これ等を参考として、幼児に親しまれているスモックの一案を後に述べるつもりです。

次に子どもは成長に似つて、自分のことは自分でしたがるようになりますから、機会をとらえて着衣についての自立心を養うことが必要です。三才ごろの幼児は自分の服についているボタンをいじることに興味を持っています。このころから指先の運動が発達して来ます。とめやすいボタンをとめやすくつくとめやすいボタン穴を用意しておけば、苦勞なくひとりでボタンかけが出来るでしょう。

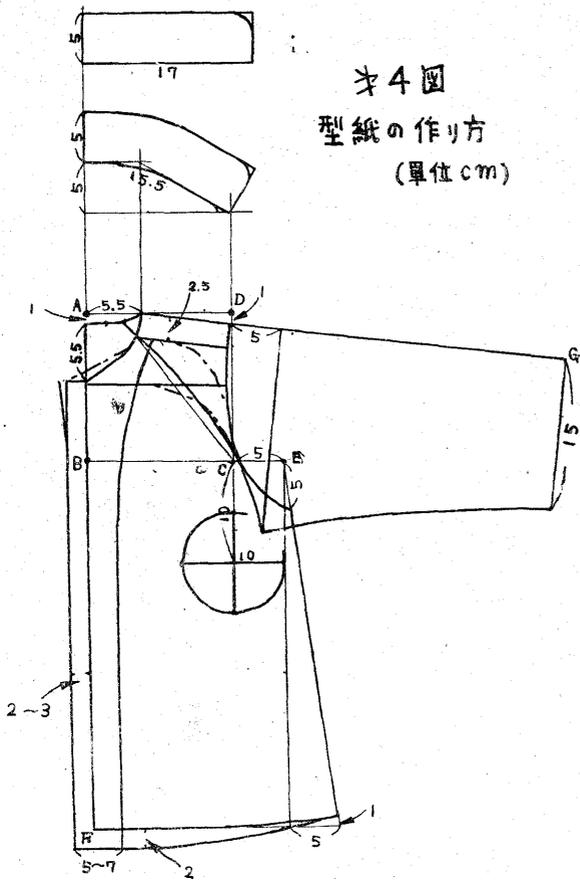
東京における幼稚園児三〇〇人ほどについて着衣に関する調査を行った結果によりますと、前開きの上衣は四才になると六五%の子どもが着られますし、五才では九八%すなわちほとんど自分で着られるようになります。服の前ボタンは四才三ヶ月で七〇%とめられますし、五才では大部分の子どもがとめられます。後ボタンのとめられるのは、五才九ヶ月で二〇%にも達せず、とめにくいことがわかります。服の前スナップは四才で八八%とめることが出来ますので、スナップはボタンよりとめやすいことがわかります。

着やすく脱ぎやすく、用便に都合のよいように形・組合わせ・留め方などを工夫して、五才ごろまでに自分でひととおりのことが出来るように導きたいものであります。

またなるべく薄着の習慣をつけるよう、服の材料や重ね方に工夫が要りますし、滑けつなきちんとした着衣の習慣を身につけてやるためにも数々の温かい心づかいが必要でありましょう。

以上のことを考慮に入れて、幼稚園や保育所に通う子どもたちに重宝なスモックについ

### ※4圖 型紙の作り方 (単位cm)



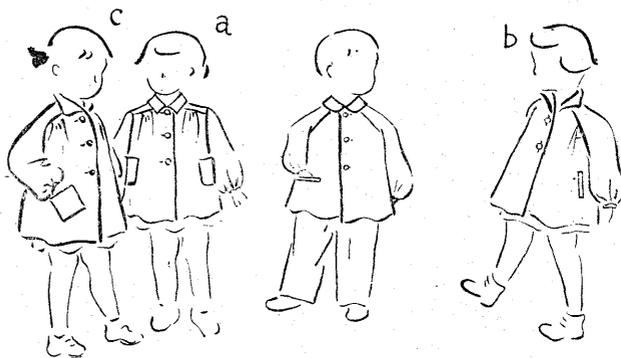
て述べることにしましょう。保育所の一隅にでも型紙を用意して、お母様方の利用に便ずるのも一方法です。

寸法は四才用として、身長一〇〇糎、胸まわり五八糎を用いてみました。スモックの着丈は身長の一 $\frac{1}{2}$ 又はそれより五糎ぐらい短

かくしますが、はじめは服と対丈にしておき、成長してだんだん短くなってよいでしょう。ゆきの短くなった場合は着用困難ですが、スモックの着丈は大丈夫です。胸囲は五八糎にゆるみが全体で二〇糎加わりますから七八糎となり、胸囲だけから見れば、四才の

最大六〇糎、六才の平均五九糎の子どもで利用出来る訳であり、四・五才の最小胸囲五〇糎の子どもでは二八糎のゆとりとなりま

す。ゆきは四才の平均は四四糎ですが、これに腕の屈伸に必要な約四糎を加えて、四八糎



とします。翌年四六・五種(五才の平均値)にのびた場合一・五種のゆとりしかありませんので、袖口のゴムをゆるい目にするか、袖口に足し布をするかしなければならぬでしょう。

次に製図の方法を述べましょう。簡単化するために前後左右を重ねてあります。

ABCD 胸囲の正方形 (AB=AD=14.5cm)

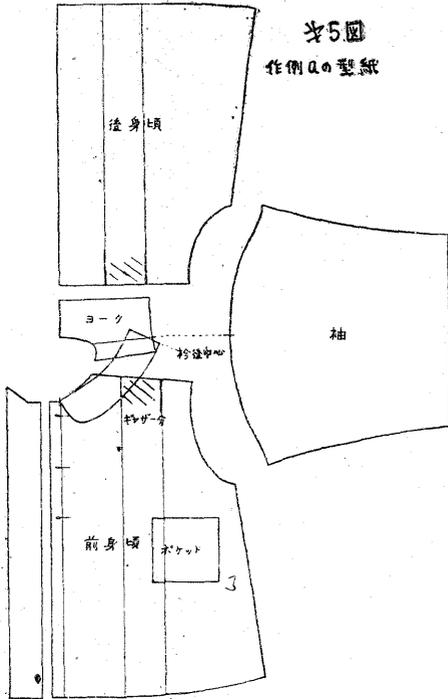
CE ゆるみ5cm (全体で20cm)

AF 着丈+1

cH (51cm)

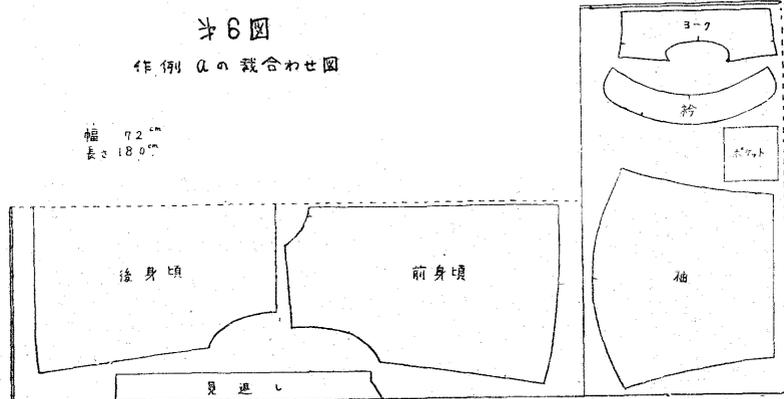
先ず作例aについてみますと、基本線を書き、前後のえりぐりを図のようにきめ、肩下りをつけ、袖ぐりをE点から五種ぐらゐ下までくり下げます。袖ぐり寸法は四二種ぐらゐになるでしょう。脇は裾で五種ぐらゐ

い斜に出し、前下りは二種ぐらゐ。前重りは四一六とします。ヨークは前二・五種後六種ぐらゐとして切りはなし、前後にギヤザーフ六種内外入れます。袖山は五種ぐらゐとし、くり下げた身頃の袖ぐり寸法と同寸法になるよう図のように決め線を書きます。袖口はゴムを入れるものとして一五種内外、袖下は図のように少しくつておきます。衿ぐりは図に記入してある寸法で画きますと三一種ぐらゐ



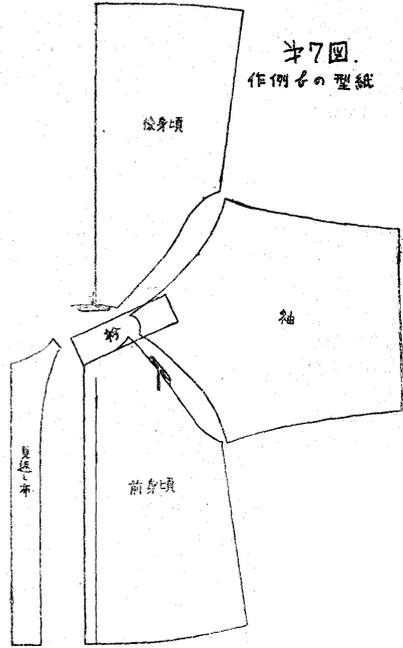
★6図 作例aの裁合わせ図

幅 72cm  
長さ 180cm

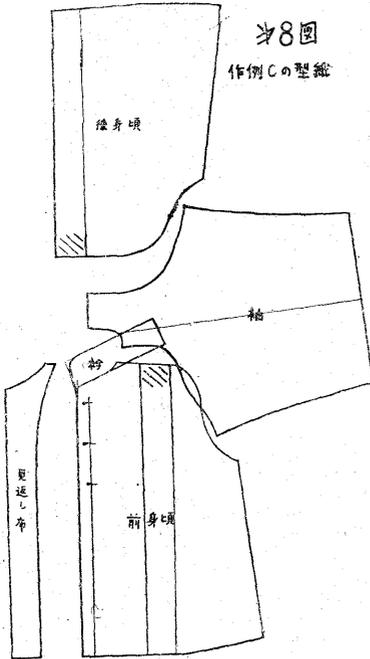


になります。このような衿は着方によって、衿ぐりの寸法を変えなければなりません。セーター類の上に重ねるスモックならばこのぐらいでよろしく、衿のついたブラウスや和服の上に着る場合には、これでは小さいことは当然であります。必要に応じて身ごろの衿ぐりを大きくし衿の衿つけ寸法を増してよいのですが、大きくしすぎるとだらしなくなり勝ちですから注意が肝要です。ボタンは二ヶ側のボタンは後側のボタンよりとめやすいこ

★7図  
作例4の型紙



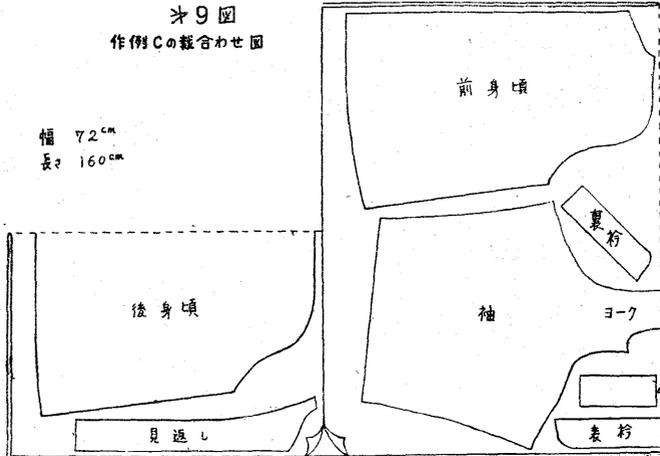
★8図  
作例Cの型紙



とは前述の通りですが、前ボタンの中でも留め易い位置がある筈です。一番上のボタンをよくはずしているのを見かけますが、多少位置を下げるにより容易くとめることが出来るようです。以上製図が出来

ましたら、第5図のように前身頃・後身頃・見返し・ヨーク・袖・衿・ポケット等の型紙を揃えて第6図のように布を見積りませう。  
bのラグラン袖は、着やすく、肩幅の成長にも応じることが出来ます。ラグラン袖の基準線は衿ぐりを三分分する点から、袖ぐりの曲線に接線をひきこれに丸みをつけます。第7図は前身頃・後身頃にひだをとって、その構成を示したものであります。  
cは普通袖とラグラン袖との中間にあるもの、第4図にはヨークの線を破線で示してあります。ギャザーやスモッキングを入れると

★9 図  
作例Cの裁合わせ図



ゆっくりしますし、可愛らしくなります。衿は長方形の衿をつけて自然に開いたもの。着せる子どもの体型によってボタンの位置をき

めたいものです。以上いづれも仕立も手入れも、簡単なものを選んで次第です。材料やデザインによって四季を通じて用いられますし、前中心の重ね方で男女いづれでも利用出来ます。材料は洗濯しやすいギンガムや丈夫なビニロン織物など、おし気なく用いられるものがよく、小柄な紺紺なども適切な材料でありましょう。用布はシングル幅（七十二厘ぐらい）一八〇厘内外（着丈の二倍と袖丈の二倍）必要でありませう。尚成長に伴う足し布やいたんだ場合の予備として多少余分に見積っておく方がよろしいでしょう。

用意する型紙のサイズは一種類でも、各部の寸法を適宜増減することにより、かなり広範囲に利用することが出来ます。またその地方の着方や習慣などを考慮に入れて、その土地にふさわしいスマートのデザインを、型紙を考案し、能率的製作が出来れば一層有意義なことでありませう。服全体を覆うスモックを着せることにより、服の汚れやいたみは半減する訳です

が、保育所の一隅に、研究された型紙が用意され、利用されることを希望するものです。（お茶の水女子大教授）

★子どもはくぶつかん★

このたび、キンダーブックは、美しい別冊付録「子どもはくぶつかん」を、お送りいたすことになりました。お子様方の知識を広め、夢を与え、動きを与える理想的な観察附録であります。

四月、五月、六月号には、「のりものおへや」をとりあげ、お子様方の大好きな乗物を六つに分類して、四月は楽しい乗物と自動車のなかま、五月には飛行機と汽車のなかま、六月は動物の乗物と船のなかまを、いづれも美しい色刷にして毎月お送りすることに致しました。尚この美しい絵は、あらかじめ画かれた墨絵の上にお子様方自身で貼っていただく様になっており、その完成の日をお祈りいたします。

—— フレーベル館 ——

# 指導主事教科別連絡協議會記録

— 幼 児 教 育 班 —

菊 地 ふ じ の  
村 田 修 子

昭和二十八年十月二十七日附をもつて、指導主事教科別連絡協議會開催のことが、文部省初等中等教育局長緒方信一氏より案内されていた。宛て先は、都道府県教育委員会指導主事務担当課長、国立大学教員養成学部部長、国立大学附属学校長宛て。

会 場 お茶の水女子大学

日 時 昭和二十九年一月二十五・二十六・二十七日

分科会 第一分科会（指導一般）

第二分科会（教科外活動又は特別教育活動）

第三分科会（へき地教育）

第四分科会（特殊教育）

第五分科会（幼児教育）

第五分科会 幼児教育班

幼児教育班への参加者は都道府県の幼児教育担当の指導主事、国立大学幼稚園教員の養成に當っている教授、同じく国立大学附属幼

稚園の園長及び教諭などこの他オブザーバーとして東京都内の公立幼稚園長、教諭、国立大学教授など、凡そ四十名。何れも斯道に深い関心と長い経験を持っている人々で、終始熱心に討議がつづけられた。

◇日 程 案◇

第一日（二十五日）

午後一三・〇〇時 連絡事項

一三・一五 司会者、記録者、報告会報告者の選定

一三・二五 自己紹介

一三・四〇 運営方法協議

一四・〇〇 休けい（出席者持参の資料提出及び配布）

一四一〇〜一六・〇〇 「指導結果の評価」の協議

第二日（二十六日）

九・〇〇 前日協議結果のまとめ

九・三〇～一二・〇〇 「幼稚園の環境構成」の協議及び

まとめ

一三・〇〇～一六・〇〇 「幼稚園教育の目標」協議

第三日(二十七日)

九・〇〇～一〇・二〇 現状報告(各都道府県毎)及び幼稚園

園の諸問題についての質疑応答

## 一、協議題

(1) 幼稚園の指導結果の評価には、どんな助言が必要か。

文部省から幼児指導要録の様式の参考が示されてから三年を経た。その間各都道府県ではどんな研究が行われたか。現在までに主としてどんな助言をしたか。また今後どんな助言をする必要があるかと思うか、さらに指導助言をするに当ってどんな困難点があった等について協議する。

(2) 幼稚園の環境構成に、どんな指導助言が必要か。幼稚園では環境が大事であるといわれるが、教育効果をあげるために現在までに環境構成についてどんな助言をしてきたか、また今後どんな助言をする必要があるか、さらに指導助言をするに当ってどんな困難点があったか等について協議する。

なお、今回は幼稚園全体及び保育室を中心として行方。

## 二、諮問事項

幼稚園教育の目標

「幼稚園教育要領」に掲げる幼稚園教育の目標(原案)について意見をきく。

## 三、現状報告

幼稚園の普及、内容研究等について各地の現状を話し合う。

〔備考〕参加者は、次の資料を持参すること。

(1) 協議題、現状報告について参考となる資料四十部

(2) 各都道府県で幼稚園を設置する場合の幼稚園基準五部

「幼児指導要録」についての討議

文部省より様式が示されて三年目を迎えた指導要録について、取扱ってみた上での批判及び各地で研究したことについて色々の話し合いが行われた。協議された主なことからは、

「法的なもの」 ○要録は今迄子供が上級にすすむにつれて最終学期まで連絡して送られるきまりであったが、改正されて次の段階まで(幼稚園からは小学校)でよいことになった。

○保存は十年以上とあったのが十年間となった。

「一般的研究討議」 徳島県より研究し改正したものについての説明があった。たとえば大きさとか。一面を色々の記録とし、裏面を評価の頁とし、まんなかで二つに折らず一枚のものとした。というような形式上のことや、三年間の記入の欄を二年間とし、出欠の状況は毎月記入するようにした等々大変参考になることがらであった。

評価の欄も色々細かい事があるが、特に「指導を要する行動欄」があることである。

ひきつづき東京都から、今迄あげられたことや、これによって子

供の全体のことから分るように色々の記録が記入出来るようにしたことや、忙しい先生方が、記録の記入が少しでも楽に出来るように○でかこむようにした。こと等について説明があった。

評価の欄では、「身体の状況」のところは○をつけるのでなく、簡単に言葉で表現し十分分るようにした。その他「運動能力」の欄を設け走・跳・投・懸垂について強・普通・弱の評価をする。又一番幼稚園的でない感じをもつ仕事の習慣という項目については、長いこと論議したらえ、幼稚園の生活は、個人生活・社会生活と両面が考えられることから「生活態度」という項目の中に包括した。ということ、これについては、「それでよし」とする意見、「仕事という狭いものにとり易い」等色々論議が行われた。その他、大きい各項目の終りに備考欄を設け、適当に記入出来るゆとりをもたせた。等以上の事等について説明話合いが行われた。

次に大阪からも細かく説明があったが、異るところをあげると、二年間記入することにし学期末ごとに記入するようになった。備考欄を大きい項目についてでなく、細かい一つ一つについてその横に設けた。

「自然」という欄だけが大人の感じを持つので「観察」ということにした。その他細かい項目につき語句の訂正、増補さく除の項目をあげ説明があつて第一日目を終つた。

第二日目「教育目標の検討」にひきつづき「指導要録の記入の項目の検討」をすることになり、それぞれの経験、研究から話し合いが行われた。

第一面では、入学した学校が分り後々の役に立つようにした。と

いうことや電話の欄を取り除いたこと、家庭欄に特記事項を設けたこと、身体発育の記録を加えたこと等があげられ、一つのものに、すべてが記載されたものであつた方がよい、という意見や、上級学校に送られても余りかえりみられないものならば、簡単なものでよいのではないか、という反対の意見が述べられた。

又記録のうち「標準検査の記録」のところは、する人により結果の差異というものが考えられるので、どういふ所で、どういふ資格の人がした、ということを入れた方がよい。という心理学者の意見が出た。

結局、まだわずか三年をすぎた、というたけのことから、やめた方がよい。というよりなことでもなく、これを更に続けて、更に研究していくべきである。という事になった。

### 「幼稚園教育の目標」の討議

この討議に先き立って、文部省玉越事務官の文部省の意図並びに内容について大要左のような説明があった。

【意図】 幼稚園に於ては保育要領、小学校、中学校、高等学校に於ては学習指導要領（一般篇及び各教科別のもの）が、発行されてから六、七年を経過しその間、いろいろの問題が起り今やこれ等のものが再検討されるべき時がきています。

そこで、現在文部省としてはこれ等の指導要領を、一般篇と各教科のことを一冊にまとめ、幼稚園から高等学校までを一貫した主旨で編纂し、新たな学習指導要領として出す予定で、現在着手進行中であります。

幼稚園のものは、「幼稚園教育要領」と称し、これは国家が示す幼稚園教育内容の基準であつて、従来の保育要領に代つて、これからの幼稚園教育の指針となるものであります。

皆さんのお手許にお配りしてある「幼稚園の教育目標」は、この「幼稚園教育要領」に掲げるものの文部省案であります。どうか充分に御協議御検討下さいまして忌憚のない御意見をおっしゃって頂きたいと思ひます。

尚、これまで幼稚園の教育に必要とされてきた心理的な発達論とか、生活環境論とか、或は音楽リズムの指導書といつたようなものは、すべてこの「幼稚園教育要領」からは脱落し指導書の方にまわされる事になります。

〔内容〕次にこの学習指導要領の内容について述べましょう。

学習指導要領は学校の各段階に於ての教育内容の基準を示すものであります。それぞれの指導書というものが別に出版される事になります。他はすべてこの指導書にまわす事になります。内容として盛られるものの現在到着している線は次のようなものであります。

#### 一、教育の一般目標

二、各学校段階の教育目標（幼稚園は幼稚園の教育目標、小学校は小学校の、中学校は中学校の教育目標の意）

三、小学校、中学校、高等学校は各教科の教育目標（幼稚園には

この項はあてはまらない）

四、小、中、高の各教科学年毎の教育目標

五、教科外活動の教育目標

六、各教科並に各教科以外の指導時間配当 — 各年各科の「幼稚園は年間二〇〇日、一日四時間といつた線など

七、各教科の主な内容

八、指導に関する主な概略

九、教育委員会や学校などで留意すべき一般事項

#### 幼稚園の教育目標（文部省原案）

学校教育法第七十八條の幼稚園の目標や教育の一般目標に照して幼稚園の教育目標を (一)健康で安全な生活 (二)楽しいきまりよい集団生活 (三)環境に対する理解や興味 (四)ことばや絵や数などに対する理解や興味 (五)楽しい美しい表現に分けて考えてみると、次のことがあげられる。

これらはすべて、幼児が常にそれを目ざして経験を積む事からである。

(一) 健康で安全な生活についての目標

(1) 清潔、食事、衣服などについてのよい習慣が身につくようになる。

(2) 運動や動作がよくできて、調和のとれた身体になる。

(3) 病気になるないように、よく気をつけるようになる。

(4) 危険から、安全に身体が守れるようになる。

(二) 楽しいきまりよい集団生活についての目標

(1) 身のまわりの始末が、ひとりりでできるようになる。

(2) 物をたいせつにすることができるようになる。

(3) よいこととわるいこととの区別がわかり、物事が公正にでき

るようになる。

- (4) 約束や時刻が守れるようになる。
  - (5) すすんでしごとをするようになる。
  - (6) しごとの順序が守れ、くふうするようになる。
  - (7) 喜んで仲間に入れるようになる。
  - (8) 自分の役割が果せるようになる。
  - (9) ひとに親切にすることができるようになる。
  - (10) ひとに協力できるようになる。
- (㉑) 環境に対する理解や興味についての目標
- (1) 身近かな社会のできごとや人々のすることを注意してみるようになる。
  - (2) 身近かな自然界の事物や現象に興味を持ち、注意してみるようになる。
  - (3) 生物を可愛がり、小鳥、虫、草花などを世話するようになる。
  - (4) 道具や機械などが役立っていることに気づくようになる。
- (㉒) ことばや絵や数などに対する理解や興味についての目標
- (1) かんたんなことばが理解でき、正しく使えるようになる。
  - (2) あいさつや自分の名前などがいえるようになる。
  - (3) 相手にわかるように、はっきりと話せるようになる。
  - (4) ひとの話が聞けるようになる。
  - (5) 絵本などをみて、その内容が理解できるようになる。
  - (6) 童話に興味を持ち、かんたんな筋のものはひとに話せるようになる。
  - (7) かんたんな数・量や貨幣の価値などが理解できるようになる。

(㉓) 楽しい美しい表現についての目標

- (1) 歌ったり、動きのリズムをすることに興味を持つようになる。
- (2) 絵をかいたり、物をつくったりすることに興味を持つようになる。
- (3) かんたんな音や色・模様・形などがわかるようになる。
- (4) 簡易楽器、クレヨン、鉄などの使い方がわかるようになる。
- (5) 音楽や絵などのよしあしに気づくようになる。
- (6) 自分の考えや気持を、音楽や絵などにあらわすことに興味を持つようになる。

#### 〔討 議〕

### この幼稚園の教育目標の原案に対して

○幼児期の特質として情緒的なものももっと盛られていて欲しい。

○幼児期は性格形成の時期であるのに、これを読んでみると、末梢的といつては悪いが、そういった枝葉の細かいことを、いかにも教え込む、注入するという感じに受けとれるが、もっと大きな項目を出せないものだろうか。

○学校教育法第七十八条の幼稚園の目標や指導要録などに拘束されないで、幼稚園独自の目標を掲げてはどうだろうか。

など熱心な討議がつづけられたが、之に対し玉越事務官から、皆さんの御意見はよくわかります。私もそう考えるのですが、幼稚園の内にいる人にはそういうことが理解して貰えるのですが幼稚園外の人には、法令に添う線で出すとか、上へのつながりに於て出すというふうでないと理解して貰えない。幼稚園ってそん

なものか。それでは何も大したことをしていないんじゃないか、といったふうに扱われて、いろいろのことをすずめていく上に非常に困難である。そこで、こういった外部からの理解を得られるようにということも勘案して以上のような案を立てた次第であります。

なおこの目標については皆さんがそれぞれ帰られて、教育委員会に於て一層吟味検討され、その結果を二月末日までに、文部省に送って頂きたい。各地から寄せられたそれらの案を反映して最後のものを決めたいと思います。

## 現 状 報 告

指導要録についての協議、幼稚園の教育目標についての検討に充  
分な論議が行われたので、何分にも時間に余裕なく、この現状報告  
は第二日夜のフレール館講堂に於ける懇親会の席上で、国立豊学  
校の現状や、座談会に各地の状況を伺ったに過ぎなかった。

## 幼稚園の環境構成

大阪市の指導主事清水桔梗先生の、施設の面に於ての環境構成、  
並に先生の配慮による環境構成の実施のお話があった。先生の配慮  
による環境構成の面では、

- 保育室の拡充
- 教科別保育室
- 青空保育室

などについての実施報告があり、中でも教科別保育室の実施につい

ては、岡山県も同様の実施経験を持って居られるところから、いろ  
いろの質問があり、結局これの実際については、

興味中心に流れ過ぎはしないか

二、三年保育幼児には無理ではないか

自分の部屋、自分の先生という幼児集団の特質の点から、問題点  
がありはしないか。

この方法の実施に当っては、一園の幼児数が問題ではないか。  
などの話し合いがあって、第二日は閉会となった。

## 幼稚園最近の問題

第三日(二十七日)の午前、玉越事務官より、幼稚園最近の問題  
として、次の項についてお話があった。これ等の或るものは「文部  
省からのお知らせ」であり、お願であり、又相談でもあるのです」と  
のことであった。

### 一、教育制度

(1) 学校教育法施行規則

昭和二十八年十一月の改正で変わったことは、幼稚園の設置に際し  
て幼稚園の備えなければならないものとして、公地公舎と並べて保  
健室を備えることになった。学校医、歯科医をおくことが施行規則  
にのつたこと。

(2) 幼稚園基準

学校教育法第七條六号に「保育要領」の基準に依る、とあるのを  
「幼稚園教育要領」の基準に依ると変ったこと。

### 二、教育内容

### (1) 幼稚園教育要領

幼稚園教育要領については前述したのでここでは略す。

### (2) 実験幼稚園

実験幼稚園として昨年より竹早学芸大学の附属幼稚園を指定したこと。今年も五月の末にこの報告会が行われる。

## 三、施設設備

### (1) 施設費国庫補助

二十八年年度より建築費補助を国庫から出すようになった。二十九年年度は五〇〇万円受ける予定であるから申請するように願いたい。一県に二校の予定であるから、申請すれば必ず補助を受けられるとはいえないけれども、申請しなければ補助は受けられない。

### (2) 設備費国庫補助

二十八年年度から取れた。二十九年年度も二十八年年度同様四五〇万円受けられる予定である。増設、新設何れの場合でも受けられる。これも各府県からの申請をまつ。

### (3) 公共学校施設費国庫負担法

二十八年八月法令が通過した。災害や戦災によるものの復旧費の国庫負担が法律上認められたわけで、既に措置をうけているところもある。これも各府県からの申請をまつ。

## 四、教職員

### (1) 教育職員免許法

全体的に改正の機運にあるが、決定的な線としてきまつたことは、教諭は一級と二級との二種だけになること。

仮免や臨免は将来なくなる。但し五ヶ年間は認められることにな

っているから、この間に所要単位を取って二級に進むことである。校長免許状もなくなる。認用令によって、資格審査で決定せられることになる。

幼稚園教員養成機関は二カ年が原則になる。但し当分の間は一年又は二年の文部大臣指定のを臨時に認めることになっている。

検定制度も小、うち、高校の教諭はできることになったが、予算の都合で幼稚園ははずされた。

### (2) 私立学校教職員共済組合法

私立学校教職員共済組合法が二十九年一月一日から実施されることになり、私立学校の教職員も病気の場合療養費が貰えるようになった。掛金は一カ月千分の百二十で、うち、半額は各自負担、半額は設立者が負担することになった。

### (3) 研究会

二十九年年度は、小学校の研究会に三回入れて貰った。今年是指導者だけの集会になる予定で、全国で三カ所、一会場三十人の予定現状からして、一会場三十人という枠よりも、一会場に二〇〇人程度の二会場位は開設したいものと目下研究中である。

## 五、教育白書

我国教育の現状を訴えたもので、入口でお配りした紙片は、ほんのちらしである。まだ出来ていないが近く有料配布の予定であるから、申込んで頂きたい。尙各都道府県でも、その教育施設、設備内容、財成など、教育の現状を作製して、文部省宛て送って頂きたい。

○幼児の教育五十三巻の目次の上縁をふちどる圖案に気付かれた方があるだろうかも知れぬが、気が付かない方があつたら、一寸表紙をめくつて見て頂きたい。

中央の円は太陽を表わしている。光り輝やく太陽のまわりを、黒点で描いてある地球がまわつてゐる。地球は自らぐるぐる廻転しながら太陽のまわりを動いて位置をかえていく。一月から二月、二月から三月、三月から四月と、地球の位置は変る。

一体、いつから太陽は輝やき始め、地球は太陽をまわり始めたのだらう。数十万年、数百万年、或いは数千万年、ともかく、今生きてゐる人が誰も知らない昔々のそのむかしから、我々の知つてゐる世界の歴史の始まるもつともつと以前から、地球は太陽をぐるぐるまわつてゐたのだらう。そうして、地球の上に、何度も何度も変化が起り、人間の間にいくつもいくつも事件が繰りひろげられて行く間も、

### 編 集 後 記

太陽はしばしも休まず照りつづけ、地球は一時も廻転することを止めないで、現在も同じ動きを続けている。一体いつになつたら、地球はもはや太陽のまわりをまわらなくなるのだらう。

永遠の過去から、現在を通じて永遠の未来へ天地の運行は恒に変わらず続いている。天地の運行が、昔も、今も、未来も宇宙の法則に乗つてゐるやうに、幼児教育の根本原理は、宇宙の法則に乗つてゐる。幼児の教育が、天地の運行と共に、進まんとを。

○幼稚園と小学校の関連の問題は、幼稚園の歴史の始めから論議されてきたことである。幼稚園と小学校は、その成り立ちが違ふ。しかし、幼稚園の子供は、幼稚園だけのものではない。やがて小学校にいき、中学校にいき。同じ一つながりの子供である。幼稚園は小学校に、小学校は幼稚園に、それぞれ云い分もあるうけれども同じ一人の子供を、幼稚園から

送り出し、小学校に迎えて、どうかこの一人の子供が健やかに幸福に伸びますやうにと願う。幼稚園の先生と小学校の先生が、もつとお互に関心を持ち、研究し改善していききたいものである。

### 幼児の教育 第五三巻 第四号

定価金五十円

昭和二十九年三月二十五日印刷

昭和二十九年四月 一 日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集者 倉 橋 惣 三  
発行者

東京都文京区大塚町三十五  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
発行所 日本幼稚園協会

印刷所 東京都板橋区志村町五番地  
出版印刷株式会社  
東京都千代田区神田小川町二ノ五  
発売所 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番  
○本誌御購読についての御注文は発売所  
フレーベル館にお願ひ致します。